

令和5年度 魅力や価値を創造し発信する取り組み

引き出す教育、楽しむ教育実践事業報告書



福井県立福井商業高等学校

魅力や価値を創造し発信する実践と「引き出す教育、楽しむ教育」

鈴木 利英

本校は、今年度福井県教育委員会から「引き出す教育、楽しむ教育実践事業」に認定され、生徒一人ひとりから多様な資質・能力と可能性を引き出すことを目指しております。また今年3月には北陸新幹線が福井県まで延伸する状況において、観光や誘客をフィールドとする商業高校の生徒には、地域の新たな魅力や価値を創造し発信することが期待されています。そして昨年度までは新型コロナ対策として大きく制限されていた交流活動も、再構築する形で一層活性化するように取り組みました。また、2年生すべての学科で課題研究を新設し、商品やサービスに新たな魅力や価値を創造する取り組みを、国内および海外の様々な企業や学校などと連携し実践することができました。

国内での連携事業としては、残反利用し繊維王国の魅力再発信する実践、新幹線開業に向けて地域の新たな魅力や観光資源を創造する実践、SDGsの視点を重視して福井商業のノベルティ商品を創造する実践、地球と人にやさしいボランティア活動を通して多様な価値観に触れる取り組みを実践しました。

また海外との連携事業としては「Conflict Resolution referring to SDGs」をテーマとした台湾の高校生との協働、ASEPでのICTを活用したコラボレーションと台湾での交流活動、オーストラリアの高校生と協働し福井の魅力創造する国際探究、韓国の魅力を深掘りする日韓理解促進交流プログラム、福井商工会議所青年部との協働しスロベニアの魅力を探る課題研究などに取り組みました。

さらに、生徒一人ひとりに多様な価値観を形成する取り組みも実践しました。具体的には韓国、台湾、インドネシア、中国から福井大学への留学生との交流を通して多文化共生を推進する事業、県内各中学校高校のALTとの協働、交流から異文化理解を推進する事業、多様な見方考え方の育成を目指す教科横断型授業、学年を横断した国際経済科の生徒による学びの共有、新聞を活用し多様な価値観に焦点をあてた福井県の観光客誘致戦略を考察する授業などに取り組みました。

また本校では、高大連携による課題学習モデルの構築に取り組んでおり、福井大学国際地域学部との連携をさらに進め、様々な国からの留学生に加え、精神的にサポートしてもらったり、キャリア教育の観点からアドバイスする大学4年生の学生アドバイザーも来校し、生徒を支援してもらったりしました。異文化理解や多文化共生の必要性を感じる機会となっています。それぞれの現場で協働的な学びが成立しており、異年齢で多様な文化を持つ人との協働的な学びによって価値観を成長させ「楽しむ教育」を実践できたと感じています。

以上、地域社会および国際社会において、高校生が魅力や価値を創造し発信する実践課題は本校特有のものではなく、他校でも、その大小はあるものの共通の課題であると考え、本成果を広く還元することを目的として、本書を編集しました。時間の関係で決して十分な内容ではございませんが、今年度の成果と課題を結集させることで、改めて出発点に立てたと感じています。今後も、生徒一人ひとりから多様な資質・能力と可能性を「引き出す教育」を目指し、意欲と笑顔と達成感に満ちた「楽しむ教育」に取り組んで参りますので、御指導御支援よろしくお願いたします。

魅力や価値を創造し発信する取り組み

目 次

I	魅力や価値を創造する取り組み（国内編）	
	1. 独立会社組織による繊維王国の魅力再発信	2
	～残反利用し高校生が創るアパレルブランド～	
	2. 地域の新たな魅力や観光資源を創造する実践	5
	～新幹線開業に向けての企画戦略～	
	3. SDGsを意識した学校オリジナル商品の創造	8
	～多用途グッズの商品開発から販売まで～	
	4. 多様な価値観に触れるボランティア活動	12
	～地球にやさしく、人に優しく～	
II	魅力や価値を創造する取り組み（国外編）	
	1. 台湾の高校生との協働	
	(A) ワールドユースミーティング	16
	～ Conflict Resolution referring to SDGs ～	
	(B) ASEP	21
	～ ICTを活用したコラボレーションと台湾での交流活動～	
	2. オーストラリアでの国際探究研修旅行	24
	～高校生と協働し福井の魅力を創造～	
	3. 日韓理解促進交流プログラム	28
	～韓国の魅力を深掘りしよう～	
	4. スロベニアの魅力を探究	36
	～福井商工会議所青年部との協働による課題研究～	
III	多様な価値観を形成する取り組み	
	1. 福井大学留学生との多文化共生事業	46
	～韓国、台湾、インドネシア、中国からの留学生との交流～	
	2. 県内各中学校高校のALTとの協働	49
	～ALTとの交流から学ぶ異文化理解～	
	3. 多様な見方考え方の育成を目指す教科横断型授業	53
	～家庭科と英語科の協働による授業～	
	4. 学年を横断した国際交流における学びの共有	56
	～国際経済科国際交流発表会 2023～	
	5. 新聞を活用し多様な価値観に焦点をあてた提案授業	60
	～福井県の観光客誘致戦略を考察する授業～	

1. 独立会社組織による繊維王国の魅力再発信 ～残反利用し高校生が創るアパレルブランド～

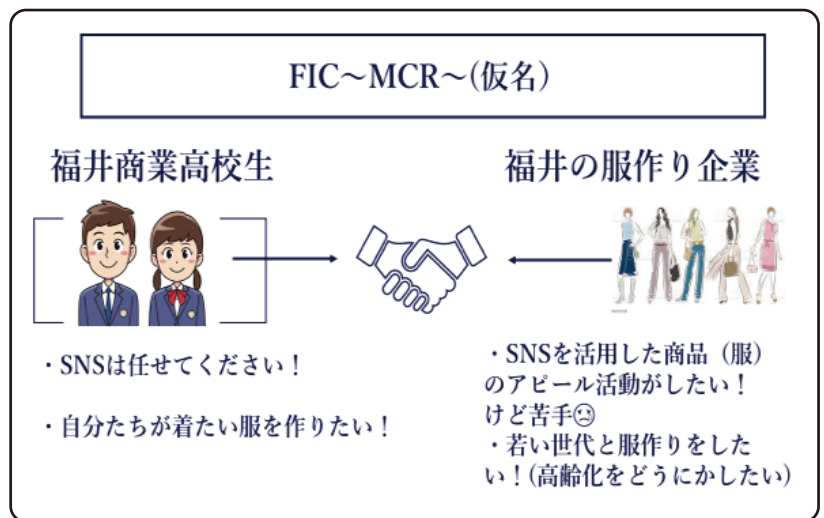
牧田 翔平

■ はじめに

現2年生から、新カリキュラムになり本校でも探究学習に取り組んでいる。2年会計科では、探究テーマとして、「アパレル」について興味があるという意見が生徒からでたことで、株式会社ラコム・株式会社丸仁・明林繊維株式会社の3社にご理解ご協力いただき、福井の繊維企業について学ぶことで上記の課題解決に向けた取り組みを実践した。繊維についての課題や福井には素晴らしい繊維企業があることを知り、アパレルブランドを作ることを目指している。

具体的には、従来活動してたFIC部(福井商業独立株式会社)を、リニューアルしFIC～MCR～として活動を始め、活動ロゴも製作した。

参加者・協力者	豊島株式会社	永里 純 氏
	株式会社ラコム	代表取締役 織田 研吾 氏
	株式会社丸仁	代表取締役社長 雨森 研悟 氏
	明林繊維株式会社	代表取締役社長 村上 貴宣 氏
	福井商業高校	2年生会計科 2年生39人



■ 実践記録

(1) 企画会議

① 企画会議 3月29日(水) 4月6日(木)

アパレルプロジェクトに関わる事前打ち合わせは3回にわたり企画会議が行われた。1回目の企画会議では、高校生がターゲットのアパレルブランド立ち上げについての提案があり、まずは高校生のニーズ調査を行うことを決めた。

② 企画会議 6月2日(金)

泰央ビルにて2回目の企画会議は、織田社長も参加した。高校生が高校生のために着たい服を作るブランドを作るためにはどうすればいいのかについて話し合った。そのためにも高校生がファッションについてどのような印象を持っているのかについて把握する必要があることがわかった。

③ 企画会議 8月4日(金)

LIGHT FORCE STORESにて、3回目の企画会議が行われ、雨森社長も参加した。雨森社長からは、これまで高校生や学生とやってきたことの活動についての話があり、本校生とできることについて話し合いが行われた。

(2) FIC～MCR～アパレルプロジェクトスタート

① 4月13日(木)【永里氏による繊維企業について】

豊島株式会社 永里 純氏来校。企業紹介を含め、高校生が着たい服や服を購入している場所などのグループワークを行い、高校生の実態把握を行った。福井の高校生が福井でなぜ服を買わないのかについて共通理解を図り、活動の方向性を固めた。



② 6月30日(金)【福井の繊維事情について】

株式会社ラコーム 代表取締役 織田 研吾氏より、これまでのファッションについてとこれからのファッションについての話をしていただいた。福井は繊維の産地だということを再認識し、ファッションの可能性や高校生ができること、やりたいことをカタチにするためのやり方を学んだ。ただ作るだけでは、認知度がないと売れないということを教えていただいたので、活動発信用の SNS 開設を行い、認知度アップに向けての投稿を行った。

③ 9月20日(水)【福井の繊維技術について】

今回は雨森社長から反射材についての話をしていただき、オリジナルブランド作りのヒントをもらった。実際の反射材を使った服やアパレル商品を見せてもらうことで、『唯一無二のデザインを作れるのではないか。』『反射材を使って商品開発したい!』との声上がり生徒が主体的になることができた。

3回の講師による授業からファッションについての知識も深まったことから、初めから服を作るのは難しいことに気づくことができた。

④ 2月8日(木)

【初めての商品開発】

永里氏による残反を使った初めての商品開発で簡単なシュシュ作りを行い、『廃材からこんな素敵なシュシュが作れることができた。』という生徒の感想もあり、自分たちで初めて達成感のある活動ができたことで、生徒たちの自信につながったと考える。

*残反生地は、明林繊維株式会社から提供。



■まとめ（成果と課題、今後の方向性）

（1）成果

今回、本校会計科 2 年生の探究活動の一環として、株式会社ラコム・株式会社丸仁・明林繊維株式会社のもと FIC～MCR～アパレルプロジェクトスタートすることができた。



生徒のやってみてみたいから生まれたプロジェクトであるため、主体性を持って取り組めた。

福井のアパレル企業の方と活動をすることで、身近なテーマということで生徒の真剣に話を聞く姿から、企業の方との交流の価値や福井県の繊維技術の高さやすごさについて改めて学ぶことができた。

アパレル業界に触れ学ぶ機会の中で、世の中に送り出されている服はどのように作られ、その際にどのような課題があるのかについての話だったが、商業科目で学んでいる用語や簿記が使われていることから大きな関心を寄せていた。

（2）課題

今回は、アパレルや繊維について知見を広げることがメインであったが、自分たちのブランド発足に向けて、服を最初から作ることは難しいということを知ることができた。今後は、小物づくりから始めるなどの実践的な活動を増やしていく必要がある。

また、ミシンを扱うことを前提としていたため、機材トラブルに対応することができなかった。機材トラブルがあったときの対処法や技術指導ができる生徒を増やすことが必要である。

（3）今後の方向性

《次年度に向けてのプラン》

ブランド化するために、製作した商品に付けるタグ製作。
→株式会社松川レピヤンに依頼予定。

本校は、様々な国との国際交流を行っているためその際に使える越前和紙でノベルティバッグ製作。

→山岸和紙店に依頼予定。

《残反を利用した商品開発》

→協力企業に助言をもらいながら小物から製作・販売予定。

現在は本校 2 年会計科のみで取り組んでいるが、他学科の興味がある生徒にも広げ、学校全体で福井の魅力について再認識・発信する機会を推進し、地元意識を高めていけるように支援していきたい。また、将来的に福井で活躍できる人材を高校生が高校生のためのアパレルブランドとして、福井から日本に目を向け、日本から世界にアパレル（繊維の魅力）について発信し、福井の魅力について再認識することを願っている。



【ネクタイ製作・販売するTシャツ作り
ワンパークフェスティバルで販売】



2. 地域の新たな魅力や観光資源を創造する実践 ～新幹線開業に向けての企画戦略～

竹内 誠

■ はじめに

2024年3月、北陸新幹線延伸により小松、加賀温泉、芦原温泉、福井、越前たけふ、敦賀の6駅が新設され、現存する金沢駅から敦賀駅までの約125kmが延伸する。今後はこれまでの関西・中京エリアだけでなく、首都圏エリアとの交流がさらに加速し、交流人口の増加が見込まれる。福井県を取り巻く環境が大きく変化する現在こそ、福井県が全国に対して魅力を発信する仕組みづくりが必要である。そこで、全国の観光事業者と福井県の高등학교が連携し、若者のアイデアを取り入れ、従来の概念にとらわれない教育旅行プログラム作りを学習した。特に、観光庁の「未来の観光人材育成事業」を参考に総合学習、探究学習の時間である課題研究でプロジェクト学習を行った。

■ 取組の概要

目的

1. 福井県の魅力を再発見し福井で学べる次世代修学旅行を考える
2. 次世代修学旅行を他地域の学生へ発信し、誘客につなげる
3. 地元学生が地元の魅力発信することにより、注目度を挙げる
4. 北陸新幹線延伸により、福井県を修学旅行の目的地とする

参加者

日本旅行株式会社、福井県教育庁高校教育課
丸岡高校、坂井高校、奥越明成高校、敦賀高校
福井商業高校情報処理科 2年生39名



■ 実践記録

(1) 授業実践

日本旅行の方と本校情報処理科2年生39人と授業を展開していった。修学旅行の時代によるニーズの変化について調査し、未来の修学旅行はどうあるべきかを意見交換した。福井県で実施されている修学旅行と流行している修学旅行との違いや、修学旅行の現状について福井県に住んでいる生徒の観点から意見交換した。



その後、日本旅行東京本社の方に福井県の観光素材と新幹線延伸後の変化予測についてオンライン講義をしていただいた。そして、福井の魅力について意見を出し合い、本校では福井県の「食」にコンセプトを絞った。それに沿ったプランやコースを考え、フィールドワークの準備を行なった。

その他では、プロモーション動画の作成や、関西北陸交流会、サステナブル・ブランド会議でのプレゼンテーション準備も行った。



(2) フィールドワーク

8月9日のフィールドワークに生徒3名が参加した。これまでの授業で企画した福井県の「食」にまつわる施設を巡った。最初に福井県農業試験場を訪れ、コシヒカリやいちほまれの開発秘話を聞いた。次に福井県で収穫されたコシヒカリ・いちほまれ・さかほまれ・シャインパール・越のリゾットの5銘柄を食味して食べ比べを行った。香り・白さ・つや・味・粘り・硬さ・総合の7項目の尺度から評価を行った。5銘柄を評価することはとても難しかったが、品種によって違いがはっきり出て、それぞれ多くの特徴があることを学んだ。

午後からは、もやいの郷へバスで移動後、格段にご飯が美味しくなるお米の研ぎ方を学び、薪割体験とご飯の釜炊き体験を行った。釜炊きごはんの塩おにぎりはとても特別美味しく、シンプルな味付けでお米の素材の旨味を味わえる最高の昼食となった。生徒たちもとても生徒の印象に残ったようである。東京から来られていた日本旅行の方も絶賛されており、福井県の魅力を再発見できた。他には米粉を使用したグラタンや餃子、デザートを調理し、福井県の食の可能性を感じた。

また、元テレビマンの方から「心を撮り、心を伝える」という撮影の技術的指導を受け、生徒自らプロモーション動画の撮影も行った。その後、修学旅行誘致を企画されているホテルフジタを訪れ、修学旅行のホテルの食事についてディスカッションを行った。給食で食べたお米のムースやお米の化粧水など、高校生の視点から意見交換ができた。福井の企業も魅力発信をされていることを知り、生徒の郷土愛を育み、新たな知見を得られた。



(3) サステナブル・ブランド国際会議 北陸ブロック大会

11月4日に金沢大学で行われ、生徒4名が参加した。最初にLOCAL BAMBŌ株式会社の江原太郎さんの講演会に参加した。地元の嫌われ者である竹をビジネス利用することでSDGsに繋げ、社会貢献に大きく寄与するお話から多くの学びを得た。その後、北陸エリアでSDGsに関する事業展開をする企業3社のパネルディスカッションを聴いた。福井県の高校生もこれまでのプロジェクトの取組についてプレゼンテーションした。

午後はテーマ別グループディスカッションに参加した。金沢まいもん寿司を運営する株式会社エムアンドケイの方にお世話になった。「十方うまし〜日本文化を世界に発信して世界をサステナブルに！」というテーマのもと、寿司業界の今後のサステナブルな取組みについて企業や他校の生徒とグループワークを行い、最後にプレゼンテーションを行った。早朝か長丁場となり、初対面の人も多く、生徒も疲労を感じていたが、充実した1日となった。



(4) 関西北陸交流会

11月13日にホテルフジタで行われた第10回関西・北陸交流会に生徒2名が参加した。関西・北陸エリアの相互交流の促進による地域活性化を目的としている会議である。各府県の知事や副知事、国土交通省の局長や経済連合会、大学教授、報道陣など多くの大人が参加し、普段の学校生活では関わることのできない方々の前で福井県の魅力について、プレゼンテーションを行った。とても緊張した様子だったが、大舞台でのプレゼンテーションから大きな達成感を得た。これまでの取組が着実に社会に波及していると感じたようである。

(5) サステナブル・ブランド国際会議 福井県特別会議

3月23、24日に今年度の授業の締めくくりであるサステナブル・ブランド国際会議福井県特別会議に生徒6名が参加した。福井県の高校生が考える「新しい教育旅行プログラム」を紹介し、議論するシンポジウムおよび

エクスカーション、ワークショップ(視察旅行)を実施した。現在の教育旅行のトレンドでもあるSDGsをテーマに参加校同士が地域の取組を発表し、その知見から多くの学びを得た。

本校は「福井県の食」にテーマを絞り、いちほまれやコシヒカリなど、3銘柄の食味を行い、県のお米の歴史や開発秘話についてプレゼンテーションを実施した。また、ソースカツ丼や焼き鯖など、お米にあう福井県の食を提供し、各食材の知識や魅力を発信した。これまでの取組の集大成として、積極的に活動できた。



■ まとめ(成果と課題、今後の方向性)

(1) 成果

福井県の地域の魅力や課題に気づき、愛郷心を高められた。修学旅行という身近な題材を通し、観光業への意識を高められた。

プロモーション動画作成、発表の場を設けることでプレゼンテーション能力を高められた。

企業や他校の生徒の交流から、学校では得られない共創の学びの輪が広がった。



(2) 課題

生徒数が多く、授業以外の活動に参加できる生徒が少数になってしまい、学びに差がでた。

日本旅行の指導方針がすでに確立しており、学校側の方針が示しづらかった。

次年度への学びの輪のつながり、継続性が現時点で不透明である。

(3) 今後の方向性

2022年度より新たに「観光ビジネス」科目が高等学校商業科に導入され、高等学校における観光教育への注目がさらに高まっていることから、高等学校の教育現場において魅力的な観光コンテンツを創造するとともに、学校だけではなく企業や地域も一体となった観光教育の在り方が検討されている。今回は学校現場において、企業とつながりを持ち、知識やノウハウの有無を問わず、誰もが積極的に観光教育に取り組めることを目指し、観光教育の実践と産学連携の基盤モデルを構築した授業展開ができた。

2024年度は、本校でも、3年生流通経済科で「観光ビジネス」科目が設定される予定である。今回のプロジェクトから得た叡智を活かし、関東から修学旅行で福井県に来られる富士見高校や三田国際学園中学校の方々をおもてなししたい。また、新幹線延伸後の福井県の変化を調査し、先行開業している石川県や富山県の事例との違いを分析する必要がある。それらを踏まえ、延伸前とは異なる視点から、生徒とともに福井の社会課題について真剣に考え、「地域の未来を共創」する授業展開を実践していくことが求められる。

3. SDGsを意識した学校オリジナル商品の創造 ～多用途グッズの商品開発から販売まで～

横山 加名

■ はじめに

本校では新カリキュラムにより、今年度から2年生で1単位の課題研究の授業が導入された。情報処理科F組39人(男18人、女21人)でオリジナルグッズを作ろうというテーマに取り組んでいる。今までになかった商品開発をし、生徒の愛校心を高めるとともに、SDGs「つくる責任 つかう責任」を意識させることとした。

■ 取組の概要

目的

1. 生徒の愛校心を高めるために福井商業高校独自のオリジナルグッズを作製する。
2. 本校は国際交流が盛んである。手土産となる物として喜ばれるものを作製する。
3. SDGs「つくる責任 つかう責任」を意識したオリジナルグッズを作製する。

■ 実践記録

①クラスを機能別組織に

生徒に、各部署での役割分担を説明し、生徒の希望にそって総務部、商品企画部、販売部、材料部、会計部、広報部の部署に配属した。各部に部長、副部長がいる。

- ・総務部(5人)全体の調整役。総務部の中に社長、副社長がいる。
- ・商品企画部(7人)商品のデザインやロゴマークなど商品化に向けて必要なことを決定する。
- ・販売部(6人)販売方法や販売戦略を考える。
- ・広報部(7人)CMやポスターを作製し、商品を広く知らせる。
- ・会計部(6人)会計処理を行う。
- ・材料部(8人)材料の集め方を考え、材料を集める。

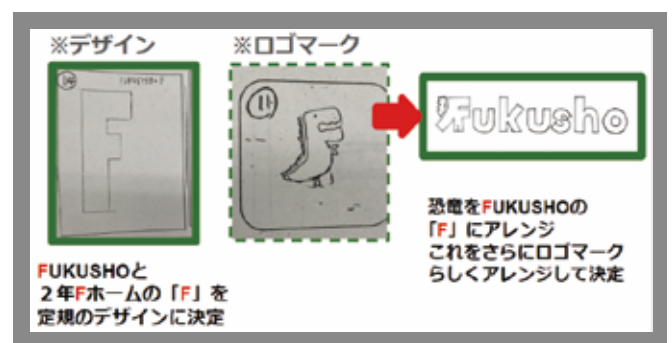
②オリジナルグッズ企画

どんな商品をオリジナルグッズにしたらよいかについてアイデアを集めた。マグカップやトートバッグや文房具類などいろいろなアイデアの中から、「定規」をオリジナルグッズとすることに決まった。

「定規」にした理由は、簿記の授業の中で、問題集で線を引くことが多く、通常の20cmくらいの定規では長すぎて少々不便を感じるのので、短め(10cm)の定規を自分たちで作ろうと考えたからだ。

③定規のデザイン、ロゴマークを決める

短めの定規のデザインと福商のオリジナルグッズとわかるロゴマークを全員がデザイン案を書き、投票で候補を選んだ。その中から商品企画部で最終デザインを決めた。



④株式会社ソリッドラボさん(社長 黒田悠生さん)とのコラボレーション

10月10日(火)総務部メンバーがソリッドラボさんに訪問。株式会社ソリッドラボさんでは、「プレシャスプラスチック福井」という、プラスチックごみをリサイクルして新たな商品として生まれ変わらせるアップサイクルという取り組みを行っている。

私たちは、ペットボトルキャップを学校中で集め、それで「定規」を作ることを決めた。

⑤試作品で検討

準備していった定規のデザインと、ロゴマークを検討し、その場で試作品を作っていたいただいた。試作品を作っていたきながら、長さやロゴマーク微調整を重ねた。目に見える具体的な形となったことで、生徒たちの意欲も高まった。



⑥新たな用途を発見

試作品を検討していく中で、定規以外の用途があることに気が付いた。

⑦商品名とキャッチコピーを検討、決定

試作品をクラスに持ち帰り、商品名とキャッチコピーのアイデアを1人一つ以上出し、投票し、候補を決めた。その中から、商品企画部で最終案を決定。



<p>商品名：「イノルラ」</p> <p>【意味】</p> <p>①「イノベーション」＋「ルーラー」 ⇒ 革新的な定規</p> <p>②「折る」＋「ルーラー」 ⇒ 合格・必勝祈願のお守り</p>	<p>キャッチコピー：</p> <p>「BYEするごみをBUYしよう」</p> <p>【伝えたいメッセージ】 本来なら捨てるはずのキャップ 新しい商品に生まれ変わらせて買ってもらう</p>
---	---

⑧材料集め

材料はすべて学校で集めたペットボトルのキャップとする。1つの「イノルラ」を作るためにはキャップが10個必要であることが分かったので、300個の「イノルラ」を作るためには、3000個が必要となる。材料係を中心に、目標個数を集めるために全校各教室にキャップを集めてもらうための袋を配置した。また、広報部は全校生徒に校内放送やビラなどで呼びかけた。

⑨キャップの洗浄

材料係を中心に、集めたキャップは、不純物が混じると成形する際に固まらないことや衛生面から、しっかりと一つ一つ手洗いを水気をふき取り乾燥させ、キャップの色ごとに分けた。

⑩製品製造

ソリッドラボさん側で完全サポート。実際の製作過程を生徒がソリッドラボさんに訪問し、体験。粉碎、成形の作業を実際に体験し、キャップの色によって硬度が違い、溶融する温度の調整の難しさや完全な成形ができない難しさを感じる事ができた。また、キャップの色の配合によって、仕上がりが一つ一つ違うという楽しみも味わう事ができた。



製品製造

ペットボトルキャップを粉碎機で粉々にする

↓

粉々にしたキャップを溶かし金型に入れる

↓

金型から外して冷まして完成



⑪製品完成

製品が完成し、2月14日に納品。

⑫商品のパッケージを検討

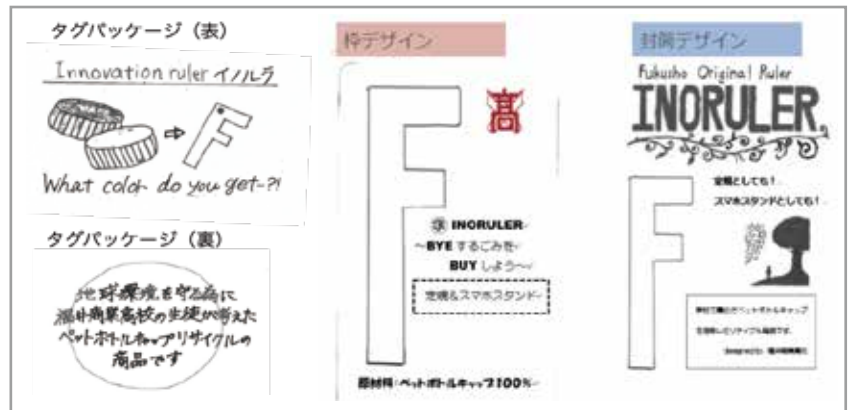
色を選ぶ楽しみを味わってもらいたいという案と、何色が出るかを楽しみにしてもらいたいという案に分かれたため、商品に直接タグをつけるパッケージと、木枠にはめて封筒に入れるパッケージを考えることにした。このデザインも生徒が考案し、決定した。

⑬パッケージ完成

パッケージが完成したので、商品に取り付け作業を全員で行った。

⑭販売に向けて

販売部が中心となり、「イノルラ」の紹介のWebページを作成。さらに注文フォームも作成し、Webページに埋め込み、そこから注文ができるようにした。

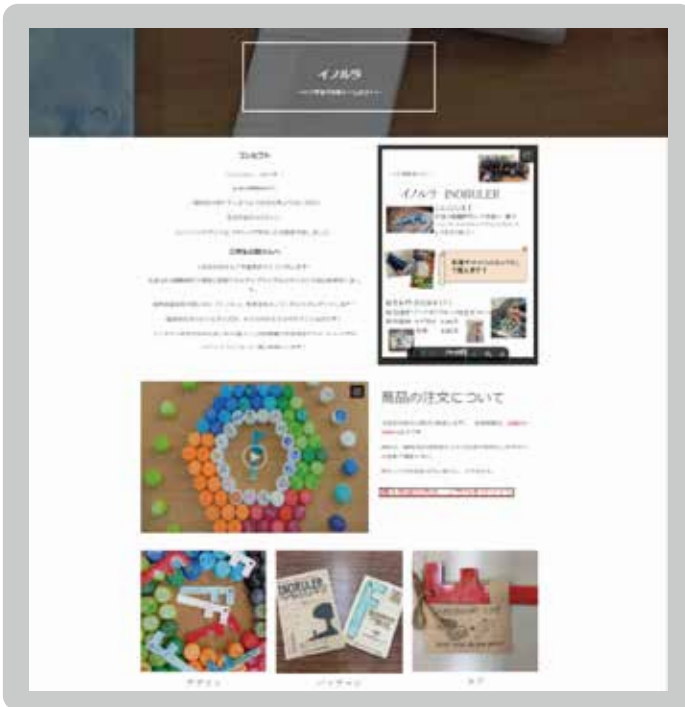


3年生には卒業式前に買ってもらえるようにした。また、広報部が作成したCMやポスターもこのWebページで見ることができるようにした。

⑮販売

結局、注文フォームからの注文がなかったため、2月29日(木)の3年生登校日の昼休みに3年生の教室に向いて商品の紹介と販売をした。9個販売することができた。

タグパッケージは¥500(原価¥440)、封筒パッケージは¥600(原価¥550)



■ まとめ

(1) 成果

生徒は、自分たちで考えたアイデアが少しずつ形になっていくことで、活動の中で生徒たちが主体的に動くようになり、アイデアが溢れてきた。この活動を通して、ものづくりのやりがいや楽しさを感じることができた。ペットボトルのキャップが思うように集まらなかったときに、どうしたら集まるだろうかと考え工夫する姿を見ることができた。本来、捨てるはずのものを、アップサイクルして素敵な商品となったことは地球環境を意識する重要な機会となった。

(2) 課題

実際に3年生に販売してみて、自分たちが思っていたよりも商品にあまり関心を持ってもらえなかったことから、もっと商品をしってもらうための手立てが必要であることが分かった。また、定規というものにしては高い価格設定というところも売上数が伸びなかった要因ではないかと考える。

(3) 今後の方向性

売上数を伸ばすという課題を解決するために、販売促進の方法をさらに検討する必要がある。特に、現段階では校内の販売に留まっているので、福商の同窓会の方々や保護者の方にも広く販売するための方法を検討していきたいと考えている。

また、海ごみを回収しその中のプラスチックごみから「イノルラ」を作成するという原材料に関する提案、そして「イノルラ」以外のオリジナルグッズを作成するという提案などについても、積極的に検討していきたいと考えている。今後も、SDGsを意識した福商のオリジナルグッズを作り、愛校心を高めることに取り組んでいきたい。



4. 多様な価値観に触れるボランティア活動

～地球にやさしく、人に優しく～

山内 裕美

■ 活動スケジュール

- 4月27～28日 校内募金活動（あしなが学生募金、緑の募金）
- 4月29日、5月28日、6月24日、7月31日、9月16日・30日、11月19日
- 2月12・17日 献血呼びかけ（福井市エルパ、アピタ福井店、福井県庁、ハピリンハピテラス）
- 5月9日 視覚障がい者体験、手引き学習会（校内）
- 5月15日 視覚障がい者心肺蘇生法講習会（福井県視覚障がい者センターわいわい）
視覚障がい者7名、本校生徒14名
- 5月20日、7月15日、9月23日 福井県青少年赤十字協議会
- 5月27日 ふくいいきいき消費者フォーラムプレゼン発表・パネル展示
「海岸清掃でごみの多さに嫌気がして脱プラ活動始めました」（福井市アオッサ）
- 6月9日 北陸新幹線福井駅字ブロック調査（新幹線福井駅）3名
- 6月22日 底喰川清掃参加（底喰川）
- 6月25日 高校生ボランティアアワード2023全国オンライン予選会（本校）
- 7月10日 視覚障がい者防災（段ボールトイレづくり等）講習会
（福井県視覚障がい者センターわいわい） 視覚障がい者11名、生徒3名
- 7月19日・25日・26日・27日 8月1日・4日
福井市主催スマホ教室サポーター（福井市内公民館） 計31名
- 7月22日・9月9日・10月22日・11月26日・12月26日・1月14日・1月21日・2月24日
三国サンセットビーチ清掃（3～6名）
- 7月28日 視覚障がい者歩行・手引き学習会・新聞袋折り等
（福井県視覚障がい者センターわいわい） 視覚障がい者6名、生徒5名
- 8月2日 脱プラスチック活動（ハーツ志比口店・羽水店） 4名
- 8月9～10日 高校生ボランティアアワード2023（東京都住友新宿ビル） 3名
- 8月11日、9月16日 水提供アプリ店訪問、脱プラのPOP掲示を依頼 3名
- 8月25日 脱プラスチック活動（ハーツ学園店） 視覚障がい者5名、生徒2名
- 10月15日 「盲導犬キャンペーン」（西武福井店） 5名
- 10月25日、12月13日 「高齢者対象ゆるゆるスマホ講習会」（日新公民館） 6・7名
- 10月28～29日 北信越サウンドテーブルテニス大会運営補助（盲学校） 計26名
- 11月17日 視覚障がい者（4名）と福井駅を歩く会（福井駅周辺） 3名
- 11月25日 令和5年度善行青少年表彰 知事表彰
- 12月 「あしなが学生募金」「ユニセフ学校募金」「赤い羽根共同募金」
- 12月10日 第9回全国ユース環境活動発表大会中部大会（名古屋市） 4名
- 12月18日 福井市主催「まちのデジタルサポーター」講座（本校図書館） 16名
- 2月4～5日 第9回全国ユース環境活動発表大会全国大会（東京都・国連大学） 5名
- 3月8日 「高齢者対象ゆるゆるスマホ講習会」（文殊公民館） 6名
- 3月22日～25日 令和5年度青少年赤十字スタディ・センター参加予定（山梨県） 2名

■ 活動内容

4月から 献血呼びかけ

呼びかけを行っている「何歳からできますか」「どこでやっているか」など通りかかった方から積極的な質問があり、想像以上に多くの方が献血に協力していることが分かりました。

このような経験から、自分の献血に対する姿勢も大きく変わり、大きな声で呼びかけたいと思うようになりました。



5月 視覚障がい者心肺蘇生法講習会

視覚に障がいのある人に教える時は、時計の「〇時〇分」を使って方向を表現しながら説明しました。中には始めて AED に触る人もおり丁寧に説明するよう心がけました。とても覚えるのが早くまた積極的に質問してくださり、楽しく取り組むことができました。また、AED の実戦の時には、すごく真剣な表情でかっこよかったです。「助かる命が絶対にあります。」



5月 ふくいいきいき消費者フォーラム

プレゼン発表・パネル展示

「海岸清掃でゴミの多さに嫌気がして脱プラ活動始めました」

三国サンセットビーチのゴミの状況を伝えるため、また脱プラスチックに向けて自分達ができることを、写真やグラフなどを使って行いました。多くの方が三国サンセットビーチはいつもきれいだと思っていたようで、ゴミの実態を知り驚いていました。



6月 北陸新幹線福井駅点字ブロック調査

工事中をしている新幹線福井駅の点字ブロックの状況を見学させて頂きました。点字ブロックの調査なのに、初めて見る新幹線駅には、子どもが喜びそうな工夫がところどころに施されていて、心が躍ってしまいました。ホームにはまだ点字ブロックが敷かれていなかったの、再度調査したいです。



7月 視覚障がい者防災講習会

視覚障がいの方と一緒に災害時に使えるダンボール座椅子を製作しました。今回はハサミやカッターで切ってもらうところがあり、どのように切りたいのかを伝えることが難しかったですが、紐でガイドを作ると切りやすいことを学びました。また自分でアレンジして座りやすい形に肘置きを作成したり、座面をダンボールを重ねて座り心地をよくしたりしている方がいて、新しい発見の連続でした。



7月～8月 福井市主催スマホ教室サポーター

日頃接する機会のない高齢者の方々とコミュニケーションを取ることが心配でしたが、とっても楽しかったです。講習内容が難しそうに見えた場合には、自分で例を作り、一緒にスマホを操作しながら覚えてもらえるような工夫をするのも楽しみでした。



7月～1月 三国サンセットビーチ清掃

夏から秋は観光客が多く、清掃ボランティアも入りますが、冬は寒さや強風のためボランティアがあまり入りません。しかし本当に必要なのは漂着ごみ流れ着く冬です。大小様々なごみがそこら中に打ち上げられています。多くの人のこの現状を知ってもらい、海岸清掃の輪が広がってほしいと思います。



8月 脱プラスチック活動

新聞袋とPOPを志比口店にて100名に配付しました。素通りしかけた人も三国サンセットビーチのごみの状況を説明し始めると戻ってきてくれ、関心の高さを感じました。この日は新聞袋を志比口店と羽水店に各200枚提供し、9月以降ハーツの2店舗に毎週100～140枚ずつ提供し、1月末現在で5000枚以上提供しています。



8月 高校生ボランティアアワード2023

今年は、海岸清掃・脱プラ、視覚障がい者支援活動、スマホ教室についてパネル発表を行い、全国の高校生と活動を共有しました。地域と連携した活動や商品を開発する活動を行っている学校がたくさんあり、興味深く、時間が足りませんでした。全国各地の高校生といっぱい交流出来てとても良い経験になりました。来年も多くの人に参加して欲しいと思います。



8月・9月 水提供アプリ店訪問

高校卒業後、水筒を持ち歩かなくなるという話を聞きましたが、環境の点から水筒を持ち続けて欲しいという思いから、水提供アプリ登録店を訪問しました。とっても快く水を入れて頂けるので、多くの人にお気に入りのボトルを持って訪問して欲しいです。



8月 視覚障がい者の方との脱プラスチック活動

視覚障がいの方との交流会で新聞の袋を折った際、「私達も社会貢献したい」「新聞を折ってスーパーで配付したい」という声があがり、実現しました。当日は視覚障がいセンターから200枚、本校から100枚提供し、障がいの方5名とともに配付しました。



10月 盲導犬キャンペーン

盲導犬への理解を深め、盲導犬ユーザーの方の誘導方法について学べイベントが行われ、ガイドヘルプボランティアを行いました。盲導犬は障害物や段差、分かれ道を教えてくれるけれど、ナビのような役割はできず、盲導犬に触ったり声をかけてはいけないということでした。実際に盲導犬ユーザーの方に出会った時には、声をかけてみたくなりました。



10月・12月 高齢者対象ゆるゆるスマホ講習会

福井市主催のスマホ教室のサポーターとして参加した際、高齢者の方々が、自分が本当に教えて欲しいことだけを個別に教える機会の必要性を感じ、地元の日新公民館で個別に対応する講習会を企画しました。日頃接する機会のない高齢の方々とのお話が心配でしたが質問だけでなく、雑談もめちゃくちゃ楽しみました。



10月 北信越サウンドテーブルテニス大会運営補助

視覚障害者の方がサウンドテーブルテニスを楽しめるよう、会場の移動や試合中のボール拾いなどを手伝いました。サウンドテーブルテニスとは音の出る玉を卓球台の上を転がして打ち合う競技ですが、体験させてもらうと目が見えないとは思えないような勘の鋭さに、驚きました。ボール拾いをしている時は、視覚障害者の方達の邪魔にならないよう、音を立てずにそっと拾いました。



11月 視覚障がい者と福井駅を歩く会

新幹線の工事の進む福井駅内をあるいてみました。チケット売場の確認や点字ブロックの確認をしながら、恐竜のモニュメントを見に行くなどして、楽しみました。まだ一部しか完成していませんでしたが、視覚障がいの方とのたくさんのお話を通じ、視覚障がいの方々へ理解が深まり、距離が縮まった気がします。



12月 「第9回全国ユース環境活動発表大会」 中部大会、2月 全国大会

海岸清掃のごみの統計や、脱プラスチック問題、ペットボトル問題について、プレゼンを行いました。中部大会は定期考査中に行われたため、ほとんど練習ができませんでした。発表した3年生の頑張りで、会場の高校生の投票による「高校生が選ぶ特別賞」に選ばれ、全国大会に行けることになりました。

全国大会もまた商業科の検定試験と重なってしまい、またしても3年生を中心に挑みました。農業や水産業関係のレベルの高い研究発表を聞き大変緊張しましたが、協賛企業特別賞を受賞でき、海岸での厳しい清掃活動が報われたような気持ちになりました。



福井新聞 2月27日付け

“気づき”を原点に広がる活動

福井新聞記者が取材した福井商業高等学校の環境活動について、福井新聞に掲載された。福井新聞記者が取材した福井商業高等学校の環境活動について、福井新聞に掲載された。

活動テーマは 地球にやさしく、人に優しく

福井県立 福井商業高等学校 JRC部

福井県立福井商業高等学校の環境活動について、福井新聞に掲載された。福井新聞記者が取材した福井商業高等学校の環境活動について、福井新聞に掲載された。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1. 台湾の高校生との協働

(A) ワールドユースミーティング

～国際プレゼンテーション World Youth Meeting2023～

竹内 康敏

■ はじめに

World Youth Meeting (WYM) とは、国内外から約 400 人の学生が参加する英語による国際プレゼンテーション大会であり、国際交流イベントでもある。生徒はプレゼンテーションに参加し現場で使える英語スキルを養うとともに、異文化と出会い、自分を鍛える国際交流イベントでもあり、グローバル社会で役立つファシリテーション力なども身につけることができる。

今年は 8 月 7 日～ 8 日に、立命館大学びわこ草津キャンパスと日本福祉大学東海キャンパスをベース校に実施された。大学と高校からの参加チームが文部科学大臣賞、Grand Prize、Platinum Prize、Gold Prize の各賞の獲得を目指して日頃のプレゼンの練習の成果を競いあった。

コロナ禍での工夫で、昨年度からはオンラインと対面を組み合わせたハイブリッド形式でも実施している。今年は海外 38 校、国内 17 校が参加し、全体テーマ “Conflict Resolution referring to SDGs (紛争をふせぐ SDGs この手で争いの芽を摘む)” のもとで、プレゼンテーションやディスカッションが行われた。

■ 取り組みの概要

- (1) 主催 ワールドユースミーティング実行委員会
- (2) 目的 ネットワークを通じた協同学習、主体的英語活用、異文化理解の体験的な学びを通し、英語での議論、葛藤、収束、解決を体験し、生涯を通して英語を使おうとする国際人として資質を養う。
- (3) 期間 2023年8月7日(月)～8日(火)
- (4) 会場 日本福祉大学、立命館大学草津キャンパス
- (5) 参加生徒 鳳新高校生徒3名
福商1C生徒6名(笥結衣 木寄笙子 清水紅葉 白崎愛理 戸嶋紗栄 日種莉子)
三民家商業2名
福商1C生徒6名(小川芳 曲木一斗 小野翔希 土田佳蓮 中野美由起 服部こはな)
樹徳商業生徒3名
福商3C生徒7名(内田恭嗣 渡邊竜汰 田中萌衣 田邊真奈 富澤未来 矢野柚羽 藪愛叶)
- (6) テーマ “Conflict Resolution referring to SDGs”
- (7) 日程 次頁に記載





Day 1 August 6, Monday Opening Session 12:10-13:30

	(Room A) Onsite @NFU MC: Nihon Fukushi University	(Room B) Online @NFU MC: Fukui Commercial HS
13:40	Nihon Fukushi University (Team F) & University of the Philippines	Nihon Fukushi University Affiliated High School & Silay Institute Senior High School
13:50	Nihon Fukushi University & Royal University of Phnom Penh	Fukui Commercial High School and Shu-Te Home-Economics & Commercial High School
14:20	Nihon Fukushi University & Mindanao Kokusai Daigaku	Fukui Commercial High School and Sanmin Home Economics & Commerce Vocational High School
14:50	Break time (10 min)	
15:20	Fukui Commercial High School and National Feng-Hsin Senior High School	Nagoya City Nagoya Commercial High School (Team B) & Kaohsiung Municipal Kaohsiung Commercial High School
15:30	Nihon Fukushi University Affiliated High School (Team A) & Kaohsiung Municipal Gushan Senior High School	Nihon Fukushi University & University of the City of Manila
15:40	Nihon Fukushi University (Team H) & Universiti Sains Malaysia	Nihon Fukushi University Affiliated High School & Cambodia Pheak Sneng Primary school
15:50	Break time (10 min)	
16:00	NFU- Ternopil National Medical University, West Ukrainian National University	Nihon Fukushi University & Wenzhou University
16:10		Kansai University & Pham Svey Primary School
Announcement for the next day		

Day 2 August 7, Tuesday

10:00	Main Room: Teams + YouTube Live (@Nihonfukushi_Univ_Online_Room) † You can access the page below and choose the account to observe/join each program.	
	Opening Session Day 2 MC: Ritsumeikan Junior & Senior High School The explanation of the procedure of the DAY 2 Comments from Prof. Gary Kirkpatrick (NFU) and Mr. Testuhiko Nakanishi (Chigasaki Method English for Global Communication) The introduction of the afternoon session The Explanation of Breakout Session	
	Lunch Break	
12:30	Discussion Session Breakout Room 1.2.3...6 Teams MCs: Ritsumeikan Junior & Senior High School	
	Room 1 @ JICA Project Session. Teacher Training Center in (Cambodia) Room 2 @ How to overcome the Poverty Mindanao Kokusai daigaku (the Philippines) Room 3 @ First Step of Collaboration The University of the City of Manila, (MC:Teachers) Room 4 @BKC (Video & MC by students from Taiwan & Ritsumeikan University) Room 5 @BKC (Video & MC by students from Ritsumeikan J & S high School) Room 6 @BKC (Video & MC by students from Osaka Prefectural Higashi High School)	
13:20	Main Room: Teams + YouTube Live (@Nihonfukushi_Univ_Online_Room) MCs from each room will make a brief report of their rooms; what kind of topic was discussed, how the discussion progressed, and what conclusions were reached in the room.	
13:35	Break	
13:50	Café Talk Session Main Room: Teams (@Nihon_Fukushi_Univ_Online_Room)	
14:35	Café Talk Room A with some breakout rooms High School Students	Café Talk Room B University Students
14:45	Café Talk Room C Teachers	
14:45	WYM Showcase MC Ritsumeikan Junior & Senior High School Main Room: Teams + YouTube Live (@Nihon_Fukushi_Univ_Online_Room)	
15:30	Closing Ceremony Main Room: Teams + YouTube Live (@Nihon_Fukushi_Univ_Online_Room)	

■ 参加した生徒の report

3C KIZAKI Shoko

Before Taiwanese students came, I was very worried because I didn't know whether I could talk to foreign people. But Taiwanese students were very kind. They responded to our English. I was glad to know that I could talk with Taiwanese students in English. I thought it would be hard for me to make a presentation with Taiwanese students because I had to tell them what I talked about with Japanese students. It was very difficult for me. Listening to English was difficult, too. However, we talked many times with each other. We could talk not only about the presentations but also about school life. We got along well. So, we were able to make a good presentation. I felt a sense of accomplishment. Until now, I have talked with only Japanese people in English, but thanks to WYM, I found foreigners' English skills are very high. So, I thought I need to study English more. Also, I thought I should not only study English but also practice speaking more. When we went to Nihon Fukushi University, I was surprised to see other presentations. Everyone spoke clearly and with confidence. I noticed something after listening to their presentations. Most of the foreigners could speak in their own words. On the other hand, most of the Japanese people spoke like they were reading their lines. So, the way they spoke was different in most of the presentations.

After the presentations finished, we could interact with university students and foreigners. At dinnertime and lunchtime, I couldn't talk with them much, but I could take pictures and communicate with Taiwanese students. I had a good time and it was a lot of fun. On the first day, I participated in making math cards for Cambodian children. It was fun, too. I hope the problems I made for the calculation drill will be used in Cambodia. After this, I ate a lot of snacks from each country. I could eat many kinds of snacks. There were sweets with a delicate taste for me. I learned that each country has its tastes.

On the second day, we learned about education in Nepal. Before that, I hadn't known much about Nepal. But I learned about the current situation in Nepal. I was very surprised to know people living in poor regions in Nepal cannot have a proper education. I had just seen just the surface of the world. I thought I became more interested in the world than before. During the week, I learned a lot of things. Above all, WYM gave me a very good experience since it was the first time for me to speak with foreign people. Moreover, I was glad because Taiwanese students remembered my name. I wouldn't have gained this experience if I hadn't entered the International Business Course at Fukui Commercial High School.

If I have a chance like this again, I would like to speak English more fluently than now. For that, I will study English more at school and I want to have better communication skills.

1C SHIMIZU Kureha

I learned that even if we are from different countries, if we have the desire to understand each other, we can communicate with each other with simple English and gestures. When I practiced my presentation with Taiwanese students, I realized that my English was not very good. But I was so glad when I could tell them my opinion well and become friends with them. After spending two days at NFC, I realized that foreign students were more confident in their presentations, spoke with confidence, and expressed their opinions more clearly than Japanese students. After all, it's cool to be confident and express their own opinion, so I want to be like them. Also, it was a great experience to be able to make the best presentations together across borders and listen to other teams' wonderful presentations. When I saw good presentations, I was moved by the fact that they actually took action on their own and showed what they had experienced and what they had thought about, which made their presentations unique.

Each group had its own style of expressing and how to show PowerPoint slides, and each group had its strengths. Also, I was able to think about what we should do to achieve SDGs, and my interest in it increased. Instead of thinking that it is someone else's problem and not trying to act,



I thought it was important to take action first. Knowing the importance of English as a foreign language and knowing that I can communicate with people from different countries and make friends with them, I was more motivated to study English. This time, I realized that my English skills are low, so I want to improve my listening skills and English conversation skills at my school. From now on, I want to communicate with more people from other countries before I graduate. Also, when I talked to people from different countries, I was surprised that things that are taken for granted in Japan are not so in other countries, and that the way of thinking and fundamental personalities are different. I think that I will meet people from many countries in the future, but I would like to accept and recognize each other's differences.

I think it's the first step toward a better world. I think it was a wonderful experience to be able to participate in an event like World Youth Meeting. Through this event, we worked hard to make presentations. We sometimes had trouble, cooperated with each other, practiced a lot, and in the end, made a presentation that we were satisfied with.

1C Sae Tojima

Through WYM, I learned that I can communicate with overseas students with my English. At first, it took time to tell something to Taiwanese students online because Japanese students could not understand what they were saying. We didn't have enough confidence in our English. So, we checked our own English with each other every time we talked. It was the hardest time for me.

But when I spoke face-to-face with Taiwanese students, I thought I could communicate with them. I was gradually getting used to speaking English and sometimes I had a moment I felt I could speak English fluently. As time went by such a feeling increased and I got confidence. I could talk with Philippine students whom I met in NFC.

Preparation for the presentation took us a lot of time. We felt frustrated many times. But we set a goal to practice hard to get an award, so we worked hard to achieve that goal.

However, one day we almost gave up because the script we had made had to be changed completely after we discussed it with Taiwanese students. What's worse, it was a difficult topic that we had never thought about. But we soon started again and finally, we made a good script. Since Taiwanese students came to Japan, we practiced very hard. It was difficult for me to explain how to move in the presentation. We tried hard to make it perfect and our relationship became deeper and deeper.

When we finally completed the presentation, we were sure that we could get a good prize because we made it to the level that no one could reach. However, the results were not what we had expected. But we smiled the whole time. We were filled with a sense of accomplishment. Looking at other groups' presentations, I could see that everyone who gave good presentations looked confident and practiced a lot. There were a lot of words I didn't understand, so sometimes I couldn't understand the content. At that time, I tried to understand by connecting the words I could hear with pictures on PowerPoint slides.

Through my experience there, I found my future challenges. The first is to use English more every day. By doing so, I think I can speak English fluently because I don't have to translate Japanese into English before I speak. The second is to have a solid discussion. At the beginning of WYM, there were times when I didn't say anything because I was too lazy to think about it. However, as I continued discussions, I came to speak more and more, and my activities changed for the better. Now I think that the process was not a waste because it was a very fulfilling and enjoyable time. I want to make use of the experience I gained and the work on the issues I discovered in this activity to make great progress.

■ まとめ

(1) 成果

台湾から参加してくれた鳳新高校生徒3名、三民家商業2名、樹徳商業生徒3名と福井商業高校の国際経済科1年生が単なる交流でなく、“Conflict Resolution referring to SDGs”をテーマとして協働学習によりプレゼンテーションに取り組むことで、主体的対話的深い学びが実践できた。

大学生と高校生がそれぞれのプレゼンを視聴することによって様々な学びを得ることができた。大学生チームが素晴らしいMCを披露してくれていたことも印象的だった。

オンラインとオフラインのハイブリッドは昨年からの試みで、参加者にとっても貴重な経験をすることができた。また、onlineで繋いでいる海外生徒との直接の交流が実現できるプログラムも設定されており、とても有意義な時間を過ごすことができた。

2日目は、前日に行われたプレゼンから審査委員に選ばれたプレゼンの視聴とジャッジからの講評を受け、自分たちのプレゼンを見直す良い機会となった。

昼休憩等を利用して参加者が大学を見学できたことも収穫の一つだったかもしれません。

(2) 課題

今後は国際経済科1年生のみの参加であったが、この他学科に広げ、学校全体でプレゼンテーションやディスカッションを推進し、生徒同士が議論し練り上げていく意識を高めていく必要がある。

また、ワールドユースミーティングの目的である主体的英語活用や異文化理解の体験的な学びは今後ますます重要になっていく。具体的なテーマに沿って、英語での議論、葛藤、収束、解決を体験し、生涯を通して英語を使おうとする国際的なビジネスマンとしての資質を養う必要がある。

(3) 今後の方向性

今後は、さらに普段の授業からSDGsに関連したテーマを設定して探究的な取り組みを進め、SDGsに関する基礎的基本的な知識や情報を生徒に蓄積していきたい。

また、英語に限らずプレゼンテーションやディスカッションの機会を多く設け、プレゼンテーションやディスカッションのスキルを高めていきたい。



(B) ASEP**～ICTを活用したコラボレーションと台湾での交流活動～**

田嶋 基史

■はじめに

1999年から始まったASEPも今回で24回目となる。我々の国際交流は、英会話ができる人間が率先して国際交流を行うというものでない。伝えたいメッセージを強烈に持っている人間が、イニシャチブを取って進めている。

メッセージを伝える方法は「英語」という言語だけではない。もちろん「英語」ができるにこしたことはない。しかし一番大切なのは、「コミュニケーションしたい」という気持ちである。映像や画像は時には、言葉よりメッセージを伝えることができる。最近タブレットやマルチメディア機器の性能が向上し、購入しやすくなった。

また翻訳ツールなどの向上により。語学の壁といったことによるコミュニケーションに対するハードルが大変低くなった。英語ができないとコミュニケーションができないといった考えは大きく変わりつつある。ASEPでの国際交流の取り組みは、生徒も教員も言葉の壁をコンピュータやマルチメディア機器をフルに利用することで乗り越えてきた歴史でもある。

2020年よりコロナウイルス感染拡大となったため、オンラインによる交流に切り替えて実施してきた。そして今年2023年度は、4年ぶりに台湾（高雄市）での開催である。参加人数は、高校、大学生併せて約700名であり、ボランティアなどのスタッフを入れると総勢約1,000名の過去最大級の大イベントとなった。

■取り組みの概要

- (1) 目的
- ・ICT活用による国際交流のあり方を探究する。
 - ・アジアにおける英語コミュニケーションの実践方法を探究する。
 - ・ホームステイ、交流会を通じて、湾との異文化交流をする。
 - ・台湾高雄市のICT教育、英語教育、交流実践を視察する。
- (3) 参加大学・高校 京都産業大学、日本福祉大学、関西大学、立命館大学、立命館中学高校、福井商業高校、立命館守山高校、奈良育英高校、名古屋商業高校、神戸大学附属中等教育学校、大阪府立東高校、福井工業大学附属福井高校、早稲田摂陵高校、日本福祉大学附属高校、ほか
- (4) 日程 2023年 12月24日（日）～29日（金）
- キャンパスツアー・エクスカーショ
生徒：各ホスト校と交流
教員：教員研修会、学校訪問
ASEP国際プレゼンテーション大会
- (5) ASEP 2023ホスト校 高雄商業高校（姉妹校） 樹徳家事商業高校 新興高校



ASEP参加者証ストラップ

■教育効果

毎年12月の最終週、中華民国高雄市においてAJET(Advanced Joint nglish Tele-communication)とWYM(World Youth Meeting)が主催し、高雄市政府、国立中山大学、高雄高級中学、他の後援によりASEP(Asian Student Exchange Program)が開催されている。アジア各国(台湾、日本、韓国、インドネシア、マレーシア)から中学・高校・大学生が集い、ICTを活用した事前交流、2カ国協同英語プレゼンテーション、対面交流を通じた国際交流活動が行われている。

ASEPのプログラムはまずインターネットを通じてのオンラインでの情報交換をおこない12月下旬に高雄市についてホームステイ等をおこなう。オンラインからFace to Faceのリアル交流に移行する中で英語プレゼンテーションのブラッシュアップをおこない実践的なテーマに基づく学びの奥深さを認識することができる。

また現地での異文化と関わりを持ちながら、一つの目標に向かうことでより深く学ぶコミュニケーションとしての「英語使用の場」として取り組むことができる。さらにプレゼンテーション作成を通じてオーディエンスに伝えるための創意工夫を台湾の生徒と必死になって考えることで言葉の精度をあげていく。

以上のような学習スタイルは人間の認知処理過程にかなっており、ASEPにおいても、言語、価値観、文化、習慣が異なる人間同士が、国内の教室ではできない体験をすることで、真の語学力、表現力、交渉力、異文化理解力、プレゼンテーション力、人間力を習得することができるようになる。

■ まとめ（成果と課題）

（1）成果

① タブレットの活用

タブレットが一人一台利用できるようになったことからZOOMを利用した現地の生徒とオンラインによる情報交換を実施した。SDGsをテーマに台湾チームと日本人チームの生徒の間で議論をする。相手の顔が見える交流は、電子メールやチャットなどのやりとりとは異なる臨場感があり、深い意見交換をすることができた。

② LINEなどのSNSによる情報共有

台湾の先生達の意見交換のツールとして、LINEなどSNSは非常に有効なツールである。写真や動画を瞬時に送り合うことで相手に伝えたいメッセージ正確に表現することができるようになった。これによって、準備をする際の誤解をできるだけ最小限にすることができた。またコンテンツ作成までの足跡を残すことができ、どこで間違っていてどこから修正できているかをお互いに確認することができた。

（2）課題

① 2国間での意見の対立

ASEPの場合、現地到着後も発表前日まで内容についての検討を行うことが多い。そのため準備の進度も異なることから、片方のグループの主張を優先させることで勝ち負けのような状況が生じる。また現地の高校側の主導でプレゼンテーションの作成を進めているため日本側が内容について強く主張をすることは軋轢の原因となる。その結果、両方が「妥協」したプレゼンテーションになる可能性がある。また両者がどちらも自分にとって好ましい結果を主張仕切れず、妥協する気もない場合、関係者全員の関係が悪化する可能性もある。毎年2国間で作成する場合には、こういった問題が発生しがちである。

② 対立する意見を調整するファシリテーターの必要性

この問題を解決するための方法として、ASEPの経験者やグループ内のボランティアが、自国または現地でのファシリテーターとしてサポートに入り、自らの経験を活用してグループ同士の交渉がスムーズに行われるように誘導することで、国際交流による新たな学習環境を生み出す可能性ができたと思った。



令和6年度は、彼らを、ファシリテーターの役割として位置づけ取り組んでいくプログラムにする。彼らがグループ間のメッセージや態度を和らげて伝達し、内省的役割を担った介入により、コンフリクトの悪循環を防ぐことで、コンフリクトの構造変化やコミュニケーションの方法の改善につなげていきたい。

■ 今後の展望

夏はWYM、冬はASEPと1年間を通して国際交流をおこなっている。そしてPPTファイルやスクリプトまたプレゼンテーションの動画ファイルは、講義や授業のコンテンツとして記録され、共有の財産として蓄積されている。生徒は、先輩の姿を自分の将来の姿にオーバーラップさせ、モチベーションを高めていくのである。

今後は、ASEPで得たスキルや知見を、しっかりとデータベース化し、さらに国際理解を深め、持続可能な社会実現の一翼を担う国際感覚豊かな生徒を育てていきたいと考えている。また、この国際プロジェクトの校内での支援体制を強化し、十分な準備ができるように担当教員および関係職員、そして参加する生徒が時間的に余裕をもって、事前交流、現地交流と国際協同プレゼンテーション、事後交流を企画運営してさらに充実した取り組みにしていきたい。

福商台湾交流記



Today was ASEP's real show!!

There were times when I was nervous and clogged up, but I was able to present the best out of three days of practice. Listening to the presentations of people from various countries, I felt that people from other countries are good at English. That's why I will study English more and do my best to have conversations without using a translator when I go to Taiwan or overseas next time!! And today was my farewell day with my host family. We were so sad that we all cried on the platform of the station. We promised to meet again, so I want to improve my English by then!! 非常謝謝 (本当にありがとう)



The real thing is finally here. I want you to demonstrate to the best of your ability what you have practiced so far. There was no hesitation in the expressions on the students' faces that day. The tournament was attended by approximately 1,000 people. Being able to give a presentation here gives me a lot of confidence.

いよいよ本番を迎える。いままで練習した成果を精一杯発揮してほしい。当日あった生徒たちの表情に迷いはなかった。会場には約1,000人の人数が参加しての大会である。ここでプレゼンテーションをできることが大きな自信につながる。

いよいよ本番を迎える。いままで練習した成果を精一杯発揮してほしい。当日あった生徒たちの表情に迷いはなかった。会場には約1,000人の人数が参加しての大会である。ここでプレゼンテーションをできることが大きな自信につながる。



□□□□□□□□
□□□□□□□□

2. オーストラリアでの国際探究研修旅行

オーストラリアの高校生と協働し福井の魅力を創造 ～オーストラリアでの国際探究研修～

伊藤 琴絵

■ 実施要項

- (1) 目的
- ・現地での学習やホームステイを通じ、日頃学習している自分の英語を試す。
 - ・現地の人とのやりとりを通じて福井の文化を探究し、互いの文化を学ぶ。
 - ・現地でのコミュニケーションを通じ、さらに英語に対する関心を高める。
 - ・帰国後、現地での体験を活かし、自分の進路決定の参考にする。

(2) 期間 7月24日 ～ 8月7日 15日間

(3) 研修場所 オーストラリア クイーンズランド州 ブリスベン近郊

(4) 滞在校 Northpine Christian College
St Dymapna' s Catholic Primary

(5) 参加人数 2年生国際経済科 34名

(6) 研修内容 現地学校で英語の授業、ホームステイ、大学訪問 等

(7) 引率教諭 伊藤琴絵 石田洋志

(8) 夏季オーストラリア研修の流れ

業者プレゼンテーション (R4 / 12月)

参加希望保護者・生徒説明会 (R5 / 2月)

参加保護者・生徒説明会 (6月28日)

生徒オリエンテーション (4月～7月)

事前研修プログラム (1学期授業時、補習時～出発直前)

事後研修プログラム〔レポート冊子作成〕 (帰国後～10月)

国際交流発表会(プレゼンテーション) (R5 / 2月)

- (9) 参加者 赤井昊希 上ヶ谷駿斗 清水陽 荒川菜那 五十子寧々 井元紫乃 大塚空愛 岡本梨恋 街道彩羽
 帰山心春 笠原みゆる 笹木杏紗 佐々木春華 澤崎真紘 清水凜 末本さくら 鈴木菜七子 高島愛華
 多田陽色 土田來楽 中野莉子 西村莉里花 針谷柚夏 細川沙耶 三和ひな佳 柳原由愛 山岸果恋
 山田夏弥 山田美憂 山中梨瑚 山本七海 吉村心花 RAFAEL RACHELLE 増永優志



■ 研修テーマ 「福井」を発信し、より魅力ある Stay Plan を共創しよう in Australia

<対象生徒>

福井商業高校 国際経済科 2Cクラス (男子3名、女子31名)
オーストラリア ブリスベン Northpine Christian College
St Dymapna' s Catholic Primary

<活動内容>

- ・オーストラリアの高校生に福井の良さを発信
- ・オーストラリアの高校生が1day 福井に滞在したら何をしたいかを探求

<グループテーマ (案)>

a. Festivals/ Events b. Crafts/ Industries c. Geography/ Nature d. History e. Food
生徒一人ひとりがテーマごとに、福井の良さを発信

<グループごとの発信と探求>

事前活動：福井ツアーを紹介するプレゼンを作成。

現地活動：2023年7月24日～8月7日

AM：ESL との授業内で、各テーマの内容について理解を深める

ホストファミリーとのやりとりを通し、理解を深める

現地高校生と改善点を話し合い、福井の魅力を生徒共創する

<生徒一人ひとりの発信と探求>

事前活動：福井の良さについて、伝える内容と質問を考えておく。

現地活動：ホストファミリーとのやりとりで、福井の魅力を再認識する。

<情報共有の方法>

その日に学んだことを夜7時までにクラスルームに投稿→日本の教員とも共有。

各グループ1名程度の内容を学校HPでアップし、日本にいる人たちとも共有。

プロジェクト全体をまとめて報告書の形にする。

(事前・事後の生徒のプレゼン、日々の報告、帰国後の個人レポート、写真等含む)

<福井商業高校での活動計画>

【英語コミュニケーションII TTクラス 金曜4限】

April 21 Explaining the goal [1 week in Fukui to learn about a-e]

Choosing themes [a. Festivals/Events b. Crafts/Industries c. Geography/Nature d. History (e.)Food]

Group making [A(4) B(4) C(4) D(5) E(4) F(4) G(4) H(5) I(4)]

April 28 Planning 1 May 26 Planning 2 Script done by June 9

June 9 Australian jokes 5. June 23 Practice with gestures

6. June 30 11:00～12:30 Performance Test 中間審査会 助言をいただく

【課題研究 木曜6限】

1. April 13 用途 2. April 20 グループテーマ決定 3. April 27 プラニング1

4. May 18 プラニング2 5. May 25 プラニング3 6. June 8 プレゼン作成1

7. June 15 プレゼン作成2 8. June 22 プレゼン作成3 9. June 29 リハーサル

■ 生徒の日記

July 26th (Wed.) Riko Okamoto

I went to school for the first time in Australia! We played a tag and ball game. It was so much fun! We taught them how to make "a paper airplane." Everyone looked very happy. After school, I went to the beach and picked up a shell. I went home and ate pizza. After a while we made a bonfire while listening to music. It was a special time. I made a lot of memories today!!



July 29th (Sat.) Nanako Susuki

I had a wonderful experience today ! First, I went shopping with my host family. I bought a lot of souvenirs there. My host mother took me to a store where I can buy a lot at a low price so I was happy to buy snacks and stuffed animals. Next my host sister went horse riding and there were a lot of animals so I looked around. There were horses, cows, sheep, donkeys and chickens. It was a great opportunity and I had a lot of fun. And I went to the beach. It was

very natural and beautiful. Finally, I went for a drive for about 5 hours from evening to night. I love driving at night so it was really fun. I watched the night view of the Brisbane observatory. It was beautiful and impressive. I want to go there again.

I was really busy today but it was a good day. I'm looking forward to going shopping and having a BBQ tomorrow.

July 29th (Sat.) Shino Imoto

I attended a Thai party today because my host mother is Thai. I ate Thai food. I also tried to eat using only my hands. I hadn't seen it before, so I was a little worried, but when I ate it, it was really delicious. Also, I went to Sunshine Coast Beach today. I heard that it is a very famous place in Australia. I have to thank you for taking me. The sea was deep blue and very beautiful. It was a lot of fun. Australia's best. I do not want to return. It was a day that made me want to study English more.



July 30th (Sun.) Riko Nakano

The week was over in no time!! Today, I went to the beach with my host family. It was a sea where dogs could go in. I went into the sea to my feet! It was so cold. It was very beautiful sea!! We built a castle out of sand. After that, we ate a fish and chips. It is a famous Australian food. It was so delicious that I want to eat it again. I ate a hot dog for dinner after I got home. It is a famous Australian food too.

After dinner, we watched a Korean drama together. It was so fun time. I am able to meet Japanese friends. I'm looking forward to meeting them. I want to enjoy one more week of living in Australia!!



July 30th (Sun.) Rara Tsuchida

I went to Redcliffe this morning for breakfast. Then I was told about the Australian flowers that were in a nearby park. In the afternoon, my host mother and I went shopping. I enjoyed talking about Japan and Australia in the car. When shopping, my host mother would tell me what items were for sale and whether they were made in Australia. We went to all the places my host mother and I wanted to go. Which is better? I also enjoyed the time I spent worrying about it! After

returning from shopping, we took pictures with our host sisters Pippa and Eden and played Australian games! We ate Pavlova for dessert, a favorite of our host sister Pippa. At first I thought it was a normal cake, but when I cut it open, I was surprised to find that the inside was all meringue, but it was very delicious! After eating, we all watched a cartoon called Bluey. It was a happy day.

July 27th (Thurs.) Miyuru Kasahara

Today, I had two happy things!!! First, I played an original Australian game. It improved my memory and eye contact. I was able to be the last remaining 3 people. It made me very happy and sad because I couldn't be the last one and win.

Second, my dream came true. I danced with Australian students. I did just dance in a P.E. class for about 40 minutes. I was very glad to dance with my favorite song. I wanna do it every day because it is the most fun thing.



July 30th (Sun.) Hiiro Tada

I went to a very big shopping mall. I think it's very hard to see everything in one day. It was interesting because everything that caught my eye was unusual. Also, there was an Aboriginal product, so I ended up buying it. I bought a lot of snacks for souvenirs recommended by my host family. I want everyone to enjoy the taste of Australia. I was most

nervous when I paid. I didn't know how to use coins, but my host family helped me. It was a day without Japanese, but I enjoyed it. I don't want to believe that next weekend will be the last, but I want to enjoy every day with all my might.

August 3rd (Thurs.) Miyu Yamada

Today was my last opportunity to spend time with the younger students at St Dymphna's. I played with some students in the library and ate lunch with them. Some students gave me some presents and cards. It was so cute! Afterwards I took my last Japanese class with my host mother. She is the Japanese teacher. I was really excited to spend time with her and the school students. Everyone was kind to me every time. I was sad to finish.



After school my host family took me to Hotel Hi Jinx with my friend. We played lots of games. It was very fun! My favourite game was the white ball pit. Then we ate frozen yoghurt and I met my new friend Zara. We went shopping and had dinner together. I bought a lot of souvenirs. Mainly chocolate biscuits! It was a really fun day but very sad to say goodbye. Tomorrow we will have the sayonara party so I want to express my gratitude to everyone.

3. 日韓理解促進交流プログラム

～韓国魅力を深掘りしよう～

令和5年度対日理解促進プログラム JENESYS 高校生訪韓団（第2団）

伊藤 琴絵

■ 実施要項

- (1) 目的 日本のが高校生が韓国を訪問し、韓国の文化体験や韓国高校生との交流等を通じて、韓国への理解を深めるとともに日本文化をはじめとする日本の魅力を発信する。
- (2) 主催機関 公益財団法人日韓文化交流基金、大韓民国教育部国際教育院（日本の文部科学省に相当）
- (3) プログラム派遣人数：35名
 高校生30名（福井商業高校15名、富山国際大学附属高校15名）
 引率等2名（福井商業高校1名、富山国際大学附属高校1名）
 ツアーナース1名、基金職員1名、団長1名
 ※第1団は徳島県立城ノ内中等教育学校15名、立命館宇治高校15名
- (4) 本校派遣団員
 3年商業科 佐々木葵
 3年国際経済科 大関心結 定兼涼子 菅原菜那 竹内彩花 三澤小雪
 2年国際経済科 岡本梨恋 多田陽色 山田夏弥 五十子寧々 笠原みゆる
 山岸果恋 Rafael Rachelle
 1年国際経済科 小野翔希 清水紅葉
 団長 鈴木利英
 引率 伊藤琴絵
- (5) 訪韓の内容
 ・視察（国会、企業、政治的重要拠点、経済的重要拠点など）
 ・学校訪問・交流（交流高校、大学、主要市長への表敬訪問）
 ・日本文化発信（日本および福井県の文化紹介、日韓の相違などの講義）
 ・文化体験（韓国料理体験、韓国音楽文化体験など）
- (6) 訪韓の日程
 令和5年11月5日（日）～11月11日（土）7日間
 1日目 11月5日（日）関西国際空港発→仁川空港到着 江原大学の学生がエスコート
 2日目 九里市訪問（市長表敬、焼却施設見学）、韓国文化教育院で歴史、政治、経済の研修
 3日目 清明高等学校訪問（日本、福井、学校の紹介と交流）、明洞観光、K-POPセンターで研修
 4日目 非武装地帯訪問（韓国と北朝鮮の境界、休戦記念館）、国立民族博物館見学、仁寺洞散策
 5日目 プルムウォン食品企業見学（豆腐づくり体験）、高麗大学校訪問（学校説明、先輩の講話）
 6日目 LG電子見学（最先端技術紹介）、国会本会議場見学、第1団との合同研修成果発表会
 7日目 11月11日（土）仁川空港発→関西国際空港着
- (7) 事前説明会
 日時：10月21日（土）10：00～12：00
 会場：オンラインにて開催
 内容：趣旨説明、訪韓概要説明、事務連絡等



《国際探究～韓国の魅力を探掘りしよう～》

対日理解促進交流プログラム 11月5日 (第1日)

日航関西エアポートホテルで日韓交流基金の清水さんに迎えられ、富山国際付属高校の皆さんとも合流し、訪韓団第2団が結団しました。

集金や必要書類の提出の後、会議室で事前説明。清水さんは「韓国はスケジュールが直前で変更になることがある。なぜなら、ぎりぎり直前までよりよい案を考えているからです」という話をされました。韓国という国を理解するうえで、受け入れる側の柔軟性も大切だと感じました。このように、一つ一つの行動を、民族性として理解していくことが多文化共生につながると思います。



秋晴れのすがすがしい朝、福商の横から、バスで関空へいざ出発！



賤ヶ岳SA、多賀SAで休憩し、岸和田SAで12時30分まで昼食。



関空で出発の記念写真。意欲満々で、搭乗ゲートへ。



出発が遅れたので、神戸の夜景とソウルの夜景をみることができました。何事もポジティブ思考で行きましょう。



アジアナ航空は機材交換で遅れた影響で、1時間半遅れで雨が降りしきる夜の仁川空港へ降り立ちました。



横断は江原大学の学生がエスコート。雨の中ご苦労様！



カルビタンに舌鼓。カルビタン(韓国語でスープ)という名前の通り、牛の骨付きカルビをじっくり煮込んだ透明なスープ料理。骨からほろりと外れる柔らかなカルビと野菜、あわびなど素材の旨みが染み出たカルビタンスープを味わいながらいただきました。



韓国では左ハンドルで右側通行。高速道路が6車線で、ビュンビュン飛ばしています。



韓国教育院の宿舎へ到着したのは23時半頃。それでも、しっかり歓迎の講義をしていただき、韓国の高校生への厳しさを実感しました。

《国際探究～韓国の魅力を探りましょう～》

対日理解促進交流プログラム 11月6日(第2日)

訪韓団第2団の第2日は座学が中心。とにかく韓国と日本の共通点と相違点を理解し、これからの韓日関係において相違点を受容し、最も地理的に近い国家同士として、よりよい関係を築くことの必要性、それを韓国の人々も強く望んでいることを感じた一日でした。
「韓日は垂直の関係から水平的関係に移行してきている。これから両国の強みを生かして国際的地位を高める必要がある」という話が印象的でした。



韓国文化教育院の研修施設で宿泊しセルフ形式の朝食。生徒全員、食欲旺盛です。

まず、最初は韓国と日本の言語と文化についての講義。共通点と相違点をしっかり理解しないとイケないと感じました。

韓国文化教育院の来賓も臨席いただき、訪韓団の歓迎式。頑張らねばと改めて決意



韓日関係について時系列での説明をいただきました。朝貢から対応外交への変化を韓国の方々も感じていることを知りました。



昼食会場へ歩いてカルビ丼を食べました。そこからバスに乗って九里市へ移動しました。



九里市長が熱烈歓迎。訪日団を受け入れる意義とこれからの韓日関係などについても深く考えるきっかけとなりました。実際のお土産以上のメッセージを頂きました。



韓国では夕食後も勉強です。これからの韓日経済関係についての講義とグループ研修がありました。



夕食は参鶏湯。一番おいしかったという意見が多かった食事です。

久里市も行政で最も力を入れているごみ処理施設を見学しました。最先端の焼却設備と構想タワーが併設され、観光客への強いアピールを感じてきました。



《国際探究～韓国の魅力を探りましょう～》

対日理解促進交流プログラム 11月8日 (第4日)



訪韓団の第4日は非武装地帯と呼ばれる韓国と北朝鮮の境界線にある施設に行きました。フェンスには「地雷注意」という警告が書いてあり、これからの朝鮮半島のあり方を考えさせられました。とにかく朝鮮民族が分断していることが不自然であり、どう解決していくか真剣に考える必要性を感じました。

それから国立民族博物館に行きました。韓国の昔からの文化や生活について模型や映像、そして説明を受けながら学ぶことが出来ました。

DMZという韓国と北朝鮮の境界付近に行きました！ゴンドラに乗り境界付近に行きました。フェンスには「地雷注意」という警告が書いてあり、本当に戦争が行われていたんだと実感することができました



非武装地帯と呼ばれる韓国と北朝鮮の境界線にある施設に行きました。韓国を見渡せる展望台や韓国と北朝鮮の歴史を映像や写真などで学べる展示などがあり、改めて平和について考える機会となりました。



昼食はスンドゥブチゲ。そこからバスに乗って移動しました



国立民族博物館に行きました。韓国の昔からの文化や生活について模型や映像、そして説明を受けながら学ぶことが出来ました。チマチョゴリ体験をしている人がたくさんいてかわいかったので、私も今度韓国に来たら体験したいです。伝統的な習慣や行事をたくさん知ることができて楽しかったです！

韓国人の一生と一年について話を聞いて日本と韓国の行事や、風習から類似性を感じ、歴史を感じました。



夕食はビビンバでした。その後、仁寺洞というところを自由に散策しました。

《国際探究～韓国を深掘りしよう～》

対日理解促進交流プログラム 11月9日 (第5日)



ブルムウォンという食品企業へ見学に行きました。豆腐を美味しく作るために、工場や配達の温度管理にこだわっていました。

訪韓団の第5日はブルムウォン見学で、ブルムウォンは、世界で一番の豆腐を作っている会社だそうです。商品を運ぶときに、温度調節にとても気をつけているそうです。4日働いたら4日休めるそうで、とても労働者に優しい会社です。韓国の企業、日本に似ていると感じました。また高麗大学訪問で、高麗大学についてのお話や、高校生訪韓団の先輩である伊藤さんのお話を聞くことが出来、自分の将来をよく考える良い機会となりました。

豆腐で作った麺やプリン、ソーセージなどもありました。プリンを食べましたが、豆腐で作られたとは思えないくらい美味しかったです。豆腐作り体験もしました。意外にも簡単に早く作ることが出来て驚きました！



本場の韓国料理はとっても美味しくて、毎日ほっぺが落ちそうでした。食べられないくらい辛いけれど、これが韓国の辛さで、これを食べられる韓国人はすごいなと思いました。

高麗大学校に行きました。韓国で頭のいい大学3つのうちの1つ！学祭にはnew jeansが来たことがあるそうです！学生の方の話は、本当に感銘を受けました。好きなことに一生懸命取り組むことで、目標達成が実現するなどの話を聞いて、私も何かに一生懸命取り組みたいと思いました！



日本人で高麗大学に留学に来ている先輩の話聞いて、私も留学したくなりました！



ライトアップが大変きれいでした。キリスト教徒が多い韓国の冬を楽しみました。



夕食はタッカルビでした。そのあと、ご飯を入れて石焼ピビンバみたいな焼きめしにしました。



《国際探究～韓国を深掘りしよう～》

対日理解促進交流プログラム 11月10日(第6日)

訪韓団の第6日はホテルに戻り、成果報告会をしました。このプログラムで学んだことからアクションプランを考え、それを各学校10分ずつ発表しました。他の学校のアクションプランを聞いてこれからも韓国と日本の繋がりを深めていきたいなと思いました。成果発表会を見た他校の先生方からは、「福商の発信力は素晴らしい」と言われました。優秀な生徒たちが集まった他校に勝るとも劣らない活躍と評価されたことで、みんな自信をもつことができました。



韓国の大手企業の一つであるLG電子に見学に行きました。そこにはたくさんの最新技術を搭載した商品が展示されていました。1番印象に残っている製品は、強化ガラスでできた背景が透けるモニターです。背景が透けるだけでもすごいのに、画質や発色がとても良く、見づらさがありませんでした。また、強化ガラスでできているのでデパートなどで活用できるのいいなと思いました。

韓国文化ジャージャーをいただきました。韓国酢豚もおしかったです。



LG電子では、説明を聞きながら実際に機械に触れることができました。大きいテレビがあってその画面がとてもきれいでした！ラーメンを作る機械があり、ロボットとは思えないほどきれいに出来上がっていて驚きました！



国会から百貨店まで歩きました。そこで朝鮮戦争時の戦闘機が展示されていて休戦状態であることを実感しました。



国会では、本会議場を見学しました。全体的な形は日本と似ていて、議長を中心として席が広がっていました。日本と違うところは、すべての席にタブレットが付いていて投票はそれで行うようです。投票すると大きなモニターに随時名前が出るシステムだそうです。このタブレットのシステムを日本も導入できるとよりスマートに会議ができると感じました。

帰るときに国会議員の缶バッジをもらうことができました！

最後の成果発表会では、この一週間のプログラムを通して学んだことや感じたこと、日本と韓国の相違点・共通点をまとめて私たちなりのアクションプランを発表しました。私たちは「脱!!固定概念!!」をテーマにしました。海外交流において、生徒が抱く言語に対する固定概念、学科にとらわれた固定概念を壊して、より多くの生徒が国際交流に関わるようなSNSを利用したアクションプランを考えました。



夕食はしゃぶしゃぶ。最後にお世話になった方々へ記念品を贈呈しました。

《国際探究～韓国の魅力を探りましょう～》

対日理解促進交流プログラム 11月11日(第7日)

大学生たちとの会話を通して印象的だったのは、「来年兵役に行く」と言っていたこと、大学生活に慣れて普通の毎日だったけれど、このプログラムにボランティアとして参加して、とても刺激を受けた」と言っていたこと、そして指示をされる前にリーダーシップを発揮して高校生たちのために献身的に動いてくれたこと、何より日本人にとっても好意的だったことです。旅行で訪れた韓国とはまた違う一面を見ることができ、とても良い経験になりました。これからもたくさんの方々にプロジェクトに参加し、たくさんの方々と交流し、視野を広げたいです。



帰国日は皆さましそうです。



今日がたまたま日韓文化交流基金の清水さんの誕生日だとわかり、Happy Birthday、歌おうか」と言うと、福商生たちは何と自然に韓国語で歌い始めました

韓国でずっと引率をしてきていた大学生たちとの別れはとっても悲しかったです。韓国の大学生に手紙を渡したら、泣いちゃうから後で読むと言われてうるうりました。

空港まで一緒に来てくれた大学生ボランティアたちにお別れをし、またの再会を誓い合いました。



このプロジェクトを通して、韓国についてのことをたくさん学びました。現在の自分と向き合い、将来を真剣に考える良い機会となったと思います。



我々第2団のツアーナースさんからは、「1週間で一度も体温計を使わなかったのは今までの経験で初めて」、第1団のツアーナースさんからも、「福商生は本当に元気ですね～」と言われました。いろいろな場面で褒めの言葉をいただきました。

このプロジェクトに関わってくださった全ての人に感謝して…ありがとうございました。

日本に帰ってきました～。他校の皆さんとはここでお別れでした。



帰ってからも、発表したアクションプランを実行したり、自分でももっと日韓の政治などを学んだりして、日韓関係 JPKRに少しでも貢献できるようにしたいです。

観光では行けないような場所もたくさん訪問させていただき、とてもいい経験になりました！これから、韓国の魅力とすばらしさをしっかりと日本で伝えていきます。

このプロジェクトを通してこのプロジェクトを通して学んだ韓国語:
잘 먹겠습니다 いただきます
잘 먹었습니다 ご馳走様でした
맛있어요 おいしい

よく使いました



この1週間は初めてをたくさん経験して、驚きと楽しさと嬉しさでいっぱいでした。今回のプロジェクトで出会った人々のご縁を大切に、これからも連絡を取り合っていきたいです！！

4. 会計科のスロベニア探究活動

～ホストタウンとの交流～

牧田 翔平

■ 実施要項

(1) 目的

現2年生から、新カリキュラムになり本校でも「探究」学習に取り組んでいる。

会計科では、探究テーマを模索している中、国際経済科のような国際交流に挑戦してみたいという意見が生徒からでたことで、福井市とホストタウン交流を結んでいるスロベニアとの交流ができないかを検討し、福井市商工会議所青年部・福井市役所総合政策課に協力を依頼し、スロベニア協働プロジェクトが発足された。

ホストタウンを結んでいる国との交流は認知度が低く、本校生がホストタウン交流を結んでいるスロベニアの国と商品開発や観光について情報を交換し、お互い若者の力で地元の魅力再発信・外国からの観光客の誘致を目指す。

(2) 参加者・協力者

福井商工会議所青年部 (福井 YEG)

福井市役所総合政策課

福井市国際文化交流大使

福井商業高校2年生会計科 2年生39人



■ 実践記録

(1) 企画会議

年度初めに福井市役所にて、今回の交流プロジェクトに関わる初回事前打ち合わせを行った。

今後の流れとして、月に1度、福井市商工会議所青年部の方々と協働授業を行い、スロベニアについての理解を深めながら2024年1月の成果発表会に向けて探究を進めていく。

(2) sLOVEnia プロジェクトスタート

① 5月10日(水)【福井市役所総合政策課の國定氏によるスロベニアについて説明】

福井市市役所総合政策課の方に来校していただき、スロベニアとはどんな国か、またこれまで福井市がスロベニアと行ってきた活動について話をいただいた。その後「スロベニアの人々に福井市にきてもらうためには何が必要か」というテーマでグループワークを行い、各班発表を行った。

② 6月14日(水) 7月3日(月)【スロベニアと〇〇】

上記①(前回の授業)であがった意見の中から、スロベニアと何がしたいかを絞っていき最終的に、『食』『観光・文化・伝統』『SNS・PR』の3つに決定した。

『食』:スロベニア料理を調べ、福井の食材を使って再現できる料理について話し合った。

『観光・文化・伝統』:スロベニアの観光・文化・伝統について調べ日本と違うものについて話し合った。

『SNS・PR』:スロベニアの認知度をアップして、地域の人々にスロベニアを身近に感じてもらえる方法を話し合った。



③ 9月13日(水)【1月の成果発表会に向けての計画】

『食』：当日販売してみたいとの声があがったため「主食」「スイーツ」「ドリンク」の3グループに分け、それぞれのグループに分かれ当日販売する品目について話し合った。

『観光・文化・伝統』：②であがった案の中から、生徒が興味をもった、「衣装」「化粧」の2つに絞り、スロベニアの伝統衣装や化粧の違いについて話し合った。

『SNS・PR』：スロベニアの認知度アップのために、「広報」「コンテンツ」「営業」の3グループに分かれ話し合った。

「広報」：インスタグラムアカウント開設・管理・投稿の計画。

「コンテンツ」：スロベニアについての情報収集、インスタグラムの投稿の準備。

「営業」：活動にポスター制作を行い、ポスター掲載場所のリストを作成。



④ 10月2日(月)4日(水)【1月の成果発表会に向けての準備】

『食』

「主食」：スロベニアの特産品である“塩”と“カツレツ”を使ったハンバーガーに決め、商品名も生徒が考え SOL(塩ペーストの大きなカツでラブがあふれる)バーガーに決定した。

「スイーツ」：日本のクレープに似ているスロベニアのパラチンケというスイーツに注目し、具材をチョコバナナとサラダに決め、試作品の準備を行った。

主食は、ノリパパ様に、スイーツは、ビアドパパ様に協力していただき商品化することができた。

「ドリンク」：スロベニアの特産品であるはちみつを使ったはちみつティーに決定し、『食』班で統一して使えるシールのデザインを考えた。

『観光・文化・伝統』

「衣装」：スロベニアの伝統衣装を検討し、衣装の一部に越前和紙を使えるように工夫しデザインを起こした。

「化粧」：日本とヨーロッパの化粧の違いを調べ、化粧のイメージを考えた。

『SNS・PR』

「広報」：インスタグラムの投稿スケジュールの確認・共有、プロフィール欄の充実

「コンテンツ」：ストックした情報の確認、スロベニア人への質問リスト作成

「営業」：ポスター張り出し先リストの整理、依頼の仕方を考えた。



【FCA タデイさんに質問】 福井市国際文化交流大使タデイさんに来校していただいた。

『食』：ハンバーガーとパラチンケの試作品をタデイさんに食べてもらい、助言をもらい改善点を洗い出した。

→ 1月の成果発表会に向けて、商品説明や値段の設定・包装の仕方について話し合った。

『観光・文化・伝統』：衣装や化粧については、調べても出てこない部分の写真を提供してもらった。

また、ただ真似るのではなく福井オリジナルを加えてはという助言をもらった。

→ 衣装：日本の服で代替できるものを考え古着屋さんで購入した。

『化粧』：生徒が考えたイメージを見せ、実際のスロベニア女性のイメージとの違いについて教えてもらい、変更点を加えイメージを完成させた。

『SNS・PR』：スロベニアの情報が調べることができるサイトや前回までにまとめた質問リストについて答えてもらった。

→ インスタグラムの投稿を毎日することに決め、その準備を進めた。



⑥ 12月6日(水) 1月15日(月)【成果発表会までのラストスパート】

『食』

「主食」・「スイーツ」：当日販売する商品のラベル貼りやPOP作成、商品説明を作成した。

「ドリンク」：スロベニアのはちみつが届いたため、はちみつティーの試作品を作った。はちみつの量の調整、3種類のはちみつがあるためそれぞれの味の特徴をPOPにまとめ販売者で共有した。

『観光・文化・伝統』

「衣装」：衣装製作の続きや衣装を着てスロベニアの雰囲気味わってもらうための写真スポットの作成も行った。

「化粧」：当日の注意事項などのPOP作成を行い、実際に商工会議所青年部の方にメイクを行った。

『SNS・PR』

「広報」：インスタグラムの投稿について、どのハッシュタグが閲覧数を多くしているのか、何時に投稿するのが良いのかの分析を行い、次回から意識して投稿を行う。

「コンテンツ」：当日の発表のプレゼンを作成し、プレゼンの練習を行った。

「営業」：張り出し先に連絡をして、ポスターの掲示のお願いをした。





■ まとめ

(1) 成果

今回、本校会計科 2 年生の探究活動の一環として福井商工会議所青年部・福井市役所総合政策課の協力のもと生徒の発案から生まれた SLOVEnia プロジェクトが実施で成功に結び付けることができた。

商工会議所青年部の方々とディスカッションをする姿から、普段の授業や学校生活では見ることのできない生徒の一面を見ることができ、授業とは本来このようなものではないかと改めて学ぶことができた。

友達同士でグループを組むのではなく、自分の興味があるところでのグループワークを行ったため、いつもと違うメンバー構成だが、活発なグループ活動が行われていた。

【生徒の振り返りから】(一部要約)

◎最初は、YEG の方が手伝ってくださるとはいつても少し不安だったのですが、実際に社会で活躍されている大人の心の強さはすごかったです。また、話し合いの効率的な進め方や現実的な計画の立て方などを知れました。最初の方は、「なんとなく」、「大人に頼ればなんとかなるだろう」と思っていたところもあったのですが、授業回数を重ねるにつれて、絶対に成功させたいという気持ちや、責任感が強まりました。たくさんの大人の方が、自分たち高校生の活動のために関わってくれているという事実や、授業外の時間で夜遅くにも関わらず、必要なものが近くの店舗にも売っているかを確認しに行ってくださったことが理由だと思います。

◎始めは外国との交流なんてできるわけ無いと思っていたけどやっていくにつれてスロベニアのことを深く知り、国際交流はこんなにも楽しいものなんだなと思いました。元々そういうのに興味がなかった分、興味が湧いてきたので今後に活かしていきたいです。

◎探究活動を通じて、授業だけでなく高校を卒業した後もこういう仕事がしたいと思うようになった。授業も楽しかったし、今まで将来やりたい仕事曖昧で明確ではなかったけど探究活動を通して地元を PR する面白さを知れた。福井県の良さを PR してもっと色んな人に知ってほしいし、もっといろんな県や国から福井に来る人が増えてほしい！活動をしたことで、福井のことがさらに好きになった。スロベニアという国もこの活動をしていなかったら知る機会がなかったと思うからいい機会になった。

◎最初はなんでこんなことをやらなきゃいけないのかという不満があったけど、やっているうちにすごく楽しくなってきた、何かを成し遂げたときはとても嬉しく楽しかったことを覚えています。協力の本当の意味がわかった気がしてとても成長できたと感じました。

これらの振り返りから、様々な大人の方々に触れたことで「とりあえずやってみる大切さ」「やり遂げたときの達成感」について探究活動を通して学べたということがうかがえる。

(2) 課題

今回は、実際にスロベニアの高校生との交流を行ったわけではなく、ただ一方的に調べて研究・発表という形であった。タデイさんにスロベニアのサイトなど教えてもらうまで情報収集することが難しかった。今後はスロベニアの高校生との交流をし、ただの国際交流で終わるのではなく、商業高校という強みをいかし、グローバルマーケティングに繋げていく必要がある。

(3) 今後の方向性

次年度に向けて、スロベニアの高校と繋がり実際に交流ができる体制を整えないといけない。

- ・ 交流言語が英語ということもあり英語で話せる体制
→ 探究活動の一環であるため生徒同士で解決できる。
 - ・ 時差が8時間。
→ 放課後の活動時間でのオンライン交流で解決できる。国際経済科以外の生徒にも国際交流への興味関心を高め支援できるように努めたい。
- さらに発展的な形態としては、お互いの国の地場産業の魅力を発信し、日本のモノをスロベニアで、スロベニアのモノを日本で販売するようなグローバルマーケティングに繋げていきたい。

【当日のプレゼン資料】



人口
約210万人
(2020年)
福井県の約3倍!!

特産品
ワイン (主に白ワイン)
塩
チョコレート
ミツバチ製品

honey wine salt chocolate

スロベニアは
世界で唯一、国名に
「Love」がある国。
SLOVENIA

なぜ、スロベニアが福井市の
「ホストタウン」となったのか？
2つの共通点があったから!!

共通点1 「水仙」
共通点2 「そば」

福井市 スロベニア

各班について

SNS班
Instagramを活用し
スロベニアについて発信

伝統・文化班
「衣装班」
「メイク班」

食班
「パンチング班」
「SOLバーガー班」

3.SNS班の活動内容

3.SNS班の活動内容

1 Instagramを活用して
スロベニアの魅力について毎日投稿

- ・観光スポット
- ・スロベニア語講座
- ・食 ・文化 etc...

3-2
ポスター
作成・掲示

Instagram
SLOVENIA

QRコード

@S_LOVENA
福井商業2年会計科7-X
福井県商工会議所青年部
Follow me !!

3.SNS班活動内容

こんなところにポスターが！

- ・福井市役所 ・福井駅
- ・福大前西福井駅 ・ハピリン
- ・かがみや ・今川焼店舗 etc...

高校生～大人をターゲットに
人が多く集まる場所に掲示！

FUKUI CITY HALL

3.SNS班活動内容

実際に作ってみたデザイン

NIVEAの缶に
スロベニアの街並みや
福井市との共通点を
デザインしてみた！

NIVEA Creme

3.SNS班活動内容

もしもし、ニベアさん？
コラボ商品
作りたいのですが...

実際に電話し
問い合わせをしました。

3.SNS班活動内容

4. 伝統・文化班

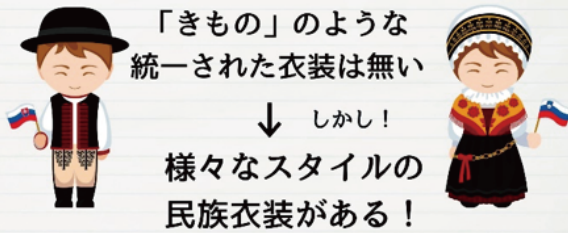


4. 伝統・文化班 ~衣装班活動内容~

1.衣服という身近なものを通して
スロベニアを知りたい

4. 伝統・文化班(衣装班活動内容)

4-2 スロベニアの衣装



4. 伝統・文化班(衣装班活動内容)

4-3 選んだスタイル



プリモルスカスタイル

4. 伝統・文化班(衣装班活動内容)

「プリモルスカスタイル」とは?

プリモルスカ=スロベニア西部

男性
ジャケット
やや広がったズボン



4. 伝統・文化班(衣装班活動内容)

プリモルスカ=スロベニア西部

女性

長いシャツを中に
ロングチョッキを外に
チュニックの
ような着こなし



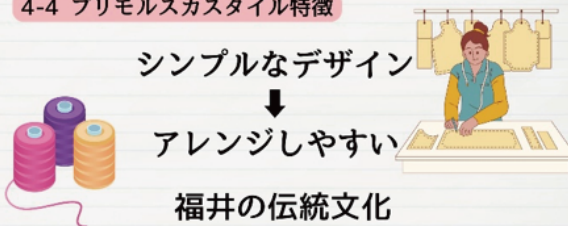
4. 伝統・文化班(衣装班活動内容)

4-4 プリモルスカスタイル特徴

シンプルなデザイン

↓
アレンジしやすい

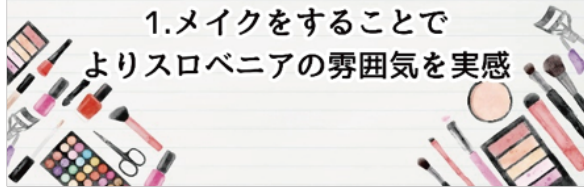
福井の伝統文化
「和紙」をフリルや襟に



4. 伝統・文化班(衣装班活動内容)

4. 伝統・文化班 メイク班活動内容

1.メイクをすることで
よりスロベニアの雰囲気を実感



4-2
スロベニアのメイクって?
ヨーロッパの
メイクに近い!

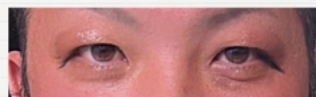


日常的なメイクをやってみた!



活動の様子

目元が印象的な
欧米風のメイクが完成!!



5. 食班活動内容

パラチンケ班 SOLバーガー班



5.食班

パラチンケ班活動内容

- 1.スロベニアのスイーツを提供したい！

DELICIOUS



5-2.

Palačinke (パラチンケ) とは？

- ・とても身近な家庭料理の一つ。
- ・もちもちのセルビアスタイルのクレープ。
- ・チョコレートクリームやジャムなどを巻いて食べる。

Okusno! (スロベニア語
おいしい!)



5-3

放課後に
試作品を作成



生地ココアを
混ぜるなどの工夫を

5-4. パラチンケ完成!!

工夫した点

- ・炭酸水を入れて生地をもちもちに
2種類の味が完成！
- ・チョコバナナ
- ・ツナサラダ(惣菜系パラチンケ)



5.食班
SOLバーガー班活動内容
スロベニア
「カツレツ」と「塩」が有名
↓
みんな大好きハンバーガーに！

5-2. SOLバーガーとは？

スロベニア語で
「塩」という意味の
「SOL」



S:塩ペーストの
O:大きなカツで
L:Loveが溢れる
バーガーに。



5-3. 工夫した点

- ・カツレツを贅沢に使用
- ・塩味のさっぱりテイストに。
⇒カツの味を引き立たせる！
- ・塩を練り込んだ小ぶり塩バンズに。
⇒カツを大きく見せるため！



～活動を振り返って～



【SNS班】

幅広い分野で
スロベニアについて
知ることができた。
今後も発信を続けたい。





1. 福井大学留学生との多文化共生事業

(A) 留学生から学ぶ異文化理解と多文化共生 ～福井大学国際地域学部との交流～

石田 洋志 山口 貴美

■ はじめに

本校は、各学年商業科（A類型、B類型）、国際経済科、会計科、情報処理科、流通経済科の5学科8クラスからなる県内最大の商業高校である。商業教育の主たる5分野（マーケティング分野、会計分野、マネジメント分野、情報分野、国際分野）に関して、学科ごとに特色ある取り組みを展開している。コロナ禍の4年間は、国際分野に関する取り組みは停滞しがちであったが、今年度5月以降は新型コロナが5類に移行したことで、国際分野の活動も活発化し、それに国際交流等に関する生徒の興味関心も高まってきている。

国際経済科の生徒に限っては、海外の生徒を学校やホームステイで受け入れたり、また実際に海外に行って現地の高校を訪問したり、協働によるプレゼンテーション活動を行ったりする機会に恵まれている。同年代の外国の生徒との直接的な交流を通して英語力を向上させ、また柔軟な国際感覚を磨くことができる。一方、それ以外の学科の生徒はそのような交流を望もうにもこれまで機会が持てず残念な思いをしてきた。そこで、福井大学国際地域学部小幡浩司教授のご理解ご協力をいただき、福井大学国際地域学部の留学生と交流することで、上記の課題解決に向けた取り組みを実践した。

■ 取り組みの概要

- (1) 目的 福井大学留学生との交流を通して、異文化理解を促進し、これからの多文化共生の意識を高め実践する資質を育成することを目指している。
- (2) 参加者 福井大学国際地域学部 日本人学部生5名 韓国からの留学生5人 台湾からの留学生4人
インドネシアからの留学生2人 中国からの留学生5人
福井商業高校商業科進学類型Bコース 1年生40人
福井商業高校商業科進学類型Bコース 2年生39人

■ 実践記録

企画会議

① 10月6日（月）

福井大学にて、今回の交流プロジェクトに関わる事前打ち合わせを行った。（参加者：国際地域学部小幡教授、日本人学部生1人、韓国人留学生2人、石田教諭）これまでにメールでのやり取りを行ってきたが、全員が一堂に会してのミーティングは初めてであった。

小幡教授より今回の交流プロジェクトの趣旨説明の後、1年生・2年生との全3回にわたる交流内容について参加者で検討し、計画を練り上げた。留学生が自国の教育制度全般についてのプレゼンテーションを実施した後（1・2回目）、本校生徒がその発表から学んだことや疑問点について深掘した内容についての質問や提案等を報告する流れ（3回目）を確認した。会の進行は日本人学生がうまくリードして、参加した全員が交流のイメージを明確に持つことができた。

1年生との交流

① 11月8日（水）

台湾と韓国からの留学生6名、日本人の学部学生が3名来校。台湾生徒が台湾の高校生の1日の過ごし方や学校での様子についてプレゼンをした。その後、6つのグループに分かれて活動を行った。



留学生からはさらに細かい点についての説明があり、本校生からは疑問点や関心のある点についての質問があった。本校生は聞き取った内容を付箋に張り、項目ごとにまとめた。

② 11月29日（水）

台湾と韓国からの留学生11名、日本人の学部学生が5名来校。前回に続き、今回は韓国生徒が韓国の高校生の1日の過ごし方や学校での様子についてプレゼンをした。その後、6つのグループに分かれて活動を行った。今回、本校生は各自のタブレットにて自分について知ってもらうための画像や資料を準備し、それをもとにグループでの活動に取り組んだ。留学生の反応はとても良く、お互いの話が円滑に進み、また活発になっていく様子うかがえた。車座でのグループ活動はお互いの距離感が近く、教室とはまた違った雰囲気での交流が見られた。



2年生との交流

① 11月1日（水）

インドネシアからの留学生2名、日本人学部生5名が来校。インドネシアに関するプレゼンテーションを聞き、インドネシアの言語、文化、地理、食事について理解を深めた。本校生徒からも質問があり、インドネシア文化に関する知識を増やすことができた。

② 12月6日（水）

中国からの留学生3名、インドネシアからの留学生2名、日本人学生5名が来校。5つのグループに分かれ、各国の文化に関するプレゼンテーションとクイズ形式のアクティビティを通じて、文化に関する知識を習得することができた。また、本校生徒から日本文化に関する発話もあり、各国の文化との類似点や相違点への気づきを通して、異文化理解が促進されたように見受けられた。



※1年生、2年生ともに当日急遽、休校措置などの事情により授業が確保できず、3回目の交流を実施できなかった。

3回目の交流では本校生徒が2回の交流を通して学んだことをさらに自分たちで深掘りしてまとめ、また留学生のプレゼンテーションを通して生じた疑問点について自分たちで考察した内容を発表する予定であった。



■ まとめ（成果と課題、今後の方向性）

（1）成果

今回、福井大学国際地域学部の留学生が地域貢献活動の一環として本校生徒との交流を希望し、商業科進学類型コースの生徒と交流をはかることができたことは大変意義深い。目の前の留学生を前に興奮した様子で真剣に話を聞く生徒の姿から、直接的な国際交流の価値の大きさについて改めて学ぶことができた。生徒たちからのアンケートからも、交流の満足度が高いことがうかがえる。

異文化に触れ学ぶ機会の中で、なかでも自分たちと同年代の高校生がどのように学校生活を送り、どのような社会人として歩んでいくのかについては、生徒たちは大きな関心を寄せて留学生のプレゼンテーションを聞き入っていた。学校生活、教科の学習、部活動、流行等、生徒たちの興味は尽きない様子であった。またそれぞれの国において自分たちと同じように第2外国語として学ぶ英語学習にもとても関心を示し、自分たちの英語学習への取り組みや今後の活用の機会についても思いを巡らしていたようである。

（2）課題

今回はトライアル的な試みであり、1年生、2年生ともに商業科進学類型Bコースのみでの実践であった。今後は他学科に広げ、学校全体で国際交流を推進し、多文化共生の意識を高めていく必要がある。

また、対面での交流活動を前提としていたために、学校閉鎖などの問題に対して柔軟に対応することができなかった。オンラインでの交流も可能な状況をつくりだし、柔軟に対応できるようにしていく必要がある。

（3）今後の方向性

次年度に向けて、今後さらに今回のような交流の機会を多く設け、生徒の国際交流への興味関心の高まりをさらに支援できるように努めたい。

年間を通して、留学生との直接的な交流を通して実際に直接見聞きしたり質問して確認し合ったりする場を作っていくたい。

同時に福井や日本に目を向け、福井や日本での教育に関する良さや魅力について再認識することを願っている。さらに発展的な形態としてはオンラインでの異国の生徒との交流も視野に入れた交流計画を図っていくたい。生徒が単に教科書の知識・技能を学ぶだけにとどまらず、実質的な国際人として広い視野を持ち今後の活躍の場を広げていけるように期待している。

また自分たちと異なる文化や習慣についても寛容の態度で接し、お互いをより高めていけるような関係作りの基礎としていきたい。

2. 県内各中学校高校のALTとの協働

ALTとの交流から学ぶ異文化理解 ～ Winter Seminar ～

野村 希美子

■ はじめに

県内中高生の英語力全国トップの理由の一つに、ALTの数と有効活用があげられる。県教委は英語での授業や豊富な体験学習といったコミュニケーション重視の授業をALTを有効に活用して実践している。実際、中高校で英語を教えるALTの人口あたりの人数は、福井県が全国で最も多い。早期に「使える英語」教育に力を入れてきた歴史があり、優秀なALTに長く勤めてもらう制度も取り入れている。人口10万人あたりのALTの人数を都道府県別に算出すると、昨年度時点で福井県は33.95人と全国で唯一30人を上回った。このようなALTに集まってもらい、様々な交流活動を通して、英語の運用能力を高めるとともに、相互の文化や習慣に関する知識を深め、視野の広い人材の育成を図る目的で、国際経済科の生徒に対する冬のセミナーを始めた。

■ 取り組みの概要

- (1) 目的 福井県の多数のALTとの交流活動を通して、英語の運用能力を高めるとともに、相互の文化や習慣に関する知識を深め、視野の広い人材の育成を図る。
- (2) 日時 12月15日(金)～16日 1日目 13:30～16:25 2日目 8:45～14:45
- (3) 会場 教室-東館、1号館・調理室・大会議室等 本部 被服室
- (4) 参加者 国際経済科1・2年生 国際経済科3年生 若干名 本校ALT
県内の各校ALT 20名
- (5) 内容
- ・ALTとのグループ活動
 - ・ゲーム・ALTの母国の文化・日本の事物紹介・即興スピーチ
 - ・ALTのワークショップ
 - ・母国の文化を紹介してもらう(歌・ダンス・料理・手工芸など)
 - ・設定されたテーマについてのグループプレゼンテーションなどを予定

■ 生徒の感想

1C YAMADA Soraha

I had a very good experience at the winter seminar.

First, I realized how difficult it is to express my feelings in a foreign language. I found English pronunciation very difficult in making skits. However, ALTs taught us how to pronounce English and how to make gestures well. So, I learned that changing intonation and using gestures make it easier to communicate with other people.

Second, the workshop required cooperation from team members. We solved the mystery. We asked the words we didn't know and solved the mystery with each other. If I had done it alone, I would never have solved it. I found it was very important to help each other.

I would like to apply what I learned at the winter seminar to my future school life.



1C TSUCHIDA Karen

I was able to learn and experience many things through the winter seminar. At first, I didn't know what to say and was worried if I could tell what I wanted to say. However, through skit practice and workshops, I was able to communicate with ALTs. I felt very happy when the other people understood what I wanted to say. After joining the winter seminar, I realized my current English ability. I would like to study and improve my English skills because I will be able to feel that I have grown from last year when I join the winter seminar next year.



1C YAMAGUCHI Hana

I learned many things through this seminar. There are two things that impressed me most. First one is that I was able to talk to a lot of ALTs in a short period of time. In the beginning, I was worried about my speaking English well. However, gradually, I was able to talk to other people. Second is that I was able to experience the fun of English more. When my group practiced for a performance, I wanted to tell ALT about how to move and show the character's feelings. So, I tried to tell them to our ALT and then she understood it. I was so happy.

2C AKAI Koki

Funny, funny winter!!!

The winter came again!! This is my favorite season because there is a winter seminar!!!

Many ALTs come to our school and we can enjoy talking with them. Also, they prepare various workshops for us. All of them are very fun. For example, I joined a workshop where we made castles like HAURU' s moving castle. ALTs are very kind so I was able to enjoy making it. They gave us a Ghibli sticker! It is very cute and my treasure.



Through the winter seminar, I was able to improve my English skills and it was a good experience! I' m looking forward to participate in the winter seminar next year!

2C UEGATANI Shunto

I am very happy to have participated English in a winter seminar. There, we can do a variety of activities that are very fun. For example, we can communicate with many ALTs, do skits that we came up with, and enjoy workshops. I experienced the voice recording. Haruki and I acted Mononokehime' s story. It was a little difficult, but it was really fun to listen later to the recordings that we made. Also, at the skits, my team acted Cinderella's story. Although the practice was very short, we were able to perform it perfectly during the actual performance. We won first place with it.

2C SHIMIZU Haruki

On December 15th and 16th, we had a winter seminar. Many ALTs came to our school. We played games with them and practiced skits in each group. I enjoyed practicing. We used "The castle in the Sky" and "Harry Potter" in our skit. My ALT loves Harry Potter. So she suggested a Harry Potter' s famous line.

We adopted it because it was very funny. That day, we improved our skits. On the next day, we showed our skit in front of our classmates. We won in the first stage. In the final stage, we showed our skit in front of everyone. I was happy everyone was laughing at our acting. We couldn't win the first place, but I was very happy.



3C OKAZAKI Shino

I joined the winter seminar again this year for the third, and the last time. As I always have before, I had a great time this year. We joined the event to support the 1st year students, and we enjoyed the chance to interact with our juniors whom we had never had talked with before. Through my 3 years of experiences in Winter Seminar, I was able to communicate with ALTs of different nationalities, and it helped us a lot to improve our skills to express our feelings in English. It was a great experience for me and also a lot of fun!

3C OKUBO Isami

I think I was able to help and support the 1st year students as a senior in this event. For the skit practice, I was able to help the 1st year students communicate with ALTs and gave some advice based on my 2 years of experience.

We had a great time during lunch. One of the ALTs showed us how to do card magic and he taught me how to do it. It was a very fulfilling time and I enjoyed talking with them. I will be going to a university to learn more about international relationships and cultures. So I want to make the most of this experience in my future life.



3C KAWAMURA Maho

At this winter seminar, I was able to experience a lot of things. On the first day, I did ice breaker activities and practiced skits with ALTs and groups of 1C students. The next day, I made scones and watched the presentations of other groups. Every part of the event was very exciting! Although I couldn't speak English fluently, I was glad to have joined the winter seminar, and I enjoyed it very much!! It was my last chance to participate in it. In the future, I want to take part in more international activities without forgetting these wonderful moments. And I will continue making efforts to enjoy conversations in English.

■ まとめ

(1) 成果

多様な国からのALTと交流できることで、自分の価値観を広げていくことができた。特に、日ごろから中学生や高校生と実践的な英語教育を展開しているALTとの協働は、生徒のレベルに適切に応じたコミュニケーションの場を設定するという意味では大変効果的な場面だと感じている。通常のクラス内での活動では同学年の横のつながりの中での協働活動のみだが、このような機会をとらえて学年を越えた縦のつながりの中で協働活動に取り組むことができた意義は大変大きい。ALTの指示を優しく説明したり、またプレゼン等で適切な表現方法について教えたりする上級生の姿から、英語力だけでなく精神的な成長もうかがえた。

また本校以外のALTとの異文化交流体験や、語彙や表現法を学ぶ機会を通して、本校生徒はより幅の広い表現活動に取り組むことができた。

(2) 課題

2日間という限られた時間の中で、本校生徒ほどの生徒も本当に意欲的にALTとの交流をはかろうと取り組んでいた。国際経済科の生徒はみな本当に英語が好きで、自分の英語が通じた達成感は学年問わず同様に同じ喜びだと再認識した。また異文化交流にも大変興味を示し、ALTの人柄はじめ発音、表情、しぐさなど、肌で感じる異文化を思う存分堪能していた。我々日本人英語教師は改めてこのセミナーの開催意義に立ち返り、より生徒が望むことを実現できる活動になるよう、またさらなる生徒の英語への興味関心向上のため、入念な準備を行っていききたい。セミナーのデザイン再構築と合わせて、招聘するALTも可能な限り様々な地域の方に来ていただき、英語や文化の多様性を学ぶ機会となるよう検討していく必要がある。

(3) 今後の方向性

次年度に向けて、今後さらに授業内においてそれぞれの生徒が総合的な英語力を高められるよう努めていきたい。中でも表現力については、日本人は全体として苦手としている分野であるので、さまざまな機会をとらえて多くの表現方法を学ぶと共に、生徒が自信をつける過程も大切にしていきたい。同時に、聞く姿勢の育成にも力を注ぎ、発表と聞く側の双方の協力にて会話やプレゼンが成り立つこともしっかり学ばせたい。ALTを招き対面での交流が活動の主となるが、さらに発展的な形態としてはオンラインでの異国の生徒との交流も視野に入れた交流計画を図っていききたい。生徒が単に教科書の知識を学ぶだけでなく、実際の場面で使うことで、時には失敗も財産として、自己表現や他者理解を通じた学びが深まることを期待している。3年間での段階的かつ継続的な自己成長が、必ず将来的な自己実現へつながっていくことを確信している。



3. 多様な見方・考え方の育成を目指す教科横断型授業

～家庭科と英語科の協働による授業～

石田 洋志

■ はじめに

AIやIoTなどの急速な技術の進展により社会情勢が激しく変化し、数年先のことを見通す困難さが生じている。また、多様な価値観の出生とともに、起こり得る課題が複雑化し、複合的に絡み合っている現状がある。そのような実社会に生徒を送り出す側として、生徒には今後起こるあらゆる状況にも適切に対応し、誠実に生き抜くための術を身に付けさせたいと思う。これまでの教科の枠にとらわれることなく各教科の学びを基盤としながら、様々な情報を適切に処理し、創造的に問題解決にあたる資質や能力の育成は本校のどの教員も目指すところである。

さて教科横断型授業の展開については、これまでたびたび他校での取り組みを耳にしたり、新聞等で紹介されるのを見たりしている。残念ながら本校ではこれまで実践されたことがなく、未知の領域であった。以前から関心を持っていた自分はどのように進めていけばいいのかと思案していた。研修で他校の実践について学ぶ機会があり、その取り組みが大変興味を引きとても面白そうだったので、学校に戻りすぐに家庭科の先生に相談した。家庭科の先生方はみな興味を示して下さり、協力的だったことが本当にありがたかった。

題材は、2年家庭総合の住居に決め、2学期後半に実施する計画を立てた。授業計画、資料作り、そして実際の授業の進め方などを相談しいろいろ検討していくなど準備にはかなり時間がかかったが、その過程がなぜか楽しく、生徒の反応を想像するだけで元気が出てきた。また2人のALTの協力も得られて、それぞれの国の住宅事情についての資料を提供してもらい、英文での読み物教材として活用した。

■ 取り組みの概要

①ねらい

2年次家庭科における住環境にて日本の伝統的および近代的な様式について学び、日本古来の伝統的な住環境における利点を理解する。日本の風土についても同時に学ぶことで、地球儀の中で日本の位置する地帯にあった風土に基づいた住環境であることを再確認する〔家庭科〕。一方、本校では2人のALTが勤務し、彼らの祖国アメリカ・フロリダ州および北アイルランドの住環境について、英文を読み進めながらその長所や特徴について資料をまとめたうえで〔英語科〕、日本古来の住環境との比較を行う。将来的に自分が生活するには、子供を育てるには、また老後を過ごすには、という時系列で理想の住環境についての考察を深めていく。

②題材

Creative Living 「家庭基礎」で生活を作ろう（大修館）〔2年家庭基礎2単位〕

第11章 住生活のマネジメント

- 1) 住まいを知ろう ー住まいの機能と住まい方-
- 2) 日本の住文化を知ろう ー住生活の継承・創造-
- 3) 住む人の生活と住まい ー住生活の特徴と住生活-(本活動)

③活動計画

3) 住む人の生活と住まい ー住生活の特徴と住生活-(本活動)

10月第3週 日本の伝統的生活様式を学び、
その特徴について理解する

- ・沖縄の住まいについて学ぶ (2時間)
- ・日本の住まいについて学ぶ

10月4週 英文にてアメリカおよび北アイルランドの生活
様式について学ぶ

- ・日本との相違について理解し、まとめる (1時間)

11月第1週 グループプレゼンテーション (1時間)

- ・グループにてまとめたことを発表する

〔活動計画の実際〕

10月26日(木) 4限目 2E 38名 (2E教室)
27日(金) 4限目 2G No.27-39,
2H No.27-38 25名 (講義室II)
11月 2日(木) 5限目 2A No.27-39,
2D No.27-38 26名 (講義室II)
9日(木) 5限目 2D
No.1-26 26名 (2D教室)
14日(火) 5限目 2G
No.1-26 26名 (2G教室)
16日(木) 5限目 2A
No.1-26 26名 (2A教室)
21日(火) 5限目 2H
No.1-26 26名 (2H教室)
24日(金) 2限目 2C
No.1-26, 39 25名 (2C教室)
12月 7日(木) 4限目 2F 39名 (2F教室)

④授業案

時間	教師の働きかけ	生徒の活動	指導上の留意点
00-05	<p>沖縄の住居の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の住居の特徴を再確認させる <p>日本の住居の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の住居の特徴を再確認させる 	<p>前時までの確認を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の住居の特徴について ・日本の住居について 	<p>前時までの学習内容について、ペアで口頭にて確認させる</p> <p>協働して学習内容を定着させる</p>
05-15	<p>Q: Which description is for American houses and which is for Japanese houses?</p>	<p>資料①について、アメリカと日本のどちらの住居についての描写かを考える</p>	<p>Pair-work</p> <p>重要語句を類推し、内容把握に努める</p>
15-25	<p>Have students check their answers.</p>	<p>両者の比較から、それぞれの住居の特徴について学ぶ</p>	<p>基本語、重要語(句)について学ぶ</p>
25-30	<p>Q: Which houses would you rather live in? Why?</p>	<p>自分が好む住居について理由と共に説明する</p>	
30-40	<p>Q: Guess which country this story from.</p>	<p>資料②より、どの地域の住居についての描写かを推測する</p>	<p>それぞれの住居が気候や風土と密接に関係していることを学ぶ</p>
40-50	<p>Have students choose a foreign country where you want to live in the future.</p> <p>Have students research houses there.</p> <p>Have students prepare for the report to the class.</p>	<p>グループで将来住みたい国の住居について調査し、まとめる</p>	<p>Group-work</p> <p>各国、各地域の住居の特徴について理解するとともに、次時の発表において、重要となる語(句)をまとめる</p>



■ まとめ

実践を通し、私と家庭科の先生とでの授業の進め方のバランスの問題や、生徒の授業に対する意識や取り組む姿勢の問題、あるいは評価などいろいろ問題点や改善点が出てきた。それでも家庭科の先生方からは次年度に向けての前向きなお言葉をいただき、また数名の生徒からは面白かったという感想が聞かれ勇気と元気を与えてもらった。

今後、地歴公民科、商業科などと連携協働し、取り組みを進めていきたい。生徒の学びを深めるため、生徒が新たな気づきから自主的意欲的な学びに向かう姿勢につなげる手立てを他の教科の先生方と協働して進めていきたい。その過程の難しさと面白さを学ぶことも意義深い。

(資料)

Housing Space in Japan and America: Contrasting Lifestyles

Let's explore the key differences between Japan and America when it comes to housing.

1. Size Matters:

- () homes are often compact, with limited space. Rooms also serve multiple functions.
- () homes have more space, with larger rooms and often separate living areas.

2. Layout and Structure:

- () homes usually have a more segmented layout with solid walls, providing distinct rooms like bedrooms, living rooms, and kitchens. There are also additions of indoor garages and basements.
- Traditional () homes may have an open floor plan with sliding paper doors.

3. Furniture and Decor:

- () homes often have low furniture, tatami mats, and minimalist decor, showing a focus on simplicity and functionality.
- () homes have a wider variety of furniture styles, often featuring larger and more complex pieces.

4. Bathrooms:

- () bathrooms typically combine the toilet and bathing area in a single space.
- () bathrooms often separate the toilet from the bathing area, with advanced toilets featuring various functions.

()'s Love for Brick Houses

※brick: a small rectangular block made of reddish clay.

Do you know why () is famous for its many brick houses? Well, it's not just a random choice – it's a mix of history, culture, and some smart thinking. To begin with, bricks are super strong and weatherproof. In a place like (), where it rains all the time, bricks are like the best umbrella for your home. They keep your space cozy and dry. However, unlike Japan or America, there are no earthquakes or hurricanes in (), so bricks can be used without fear of them being damaged in a natural disaster. Tradition is important too. () has been using bricks for thousands of years. In cities like London and Bath, you can see Roman bricks in the ground. From Roman times to today, the legacy of brickwork has been at the heart of () architecture.

4. 学年を横断した国際交流における学びの共有

～国際経済科国際交流発表会2023～

堂埜 真希

■はじめに

令和5年度国際経済科の取り組みを学年の枠を超えて発表する機会を設定することにより、生徒間の国際交流に関するネットワークの形成と課題探究に対する興味関心を高め、国際交流を促進することを目的として、国際交流会館にて国際交流発表会を実施している。

今年度も高校生の探究学習として、地域価値を創造し、英語をツールとして国外にその価値や魅力発信することで福井の活性化に貢献できるグローバル人材を育成していく。

特に国際経済科の生徒に求められる力としての育成

- ・様々な国々との異文化理解とコミュニケーション力、語学力
- ・海外の異なる文化や価値観を理解し、外国人とコミュニケーションをとるスキル
- ・海外の高校生との福井の魅力創造し発信する力

■国際交流発表会の概要

開会式

(12:30～12:40)

開会挨拶 Principal: 鈴木利英 (SUZUKI Toshihide)

MC担当 3C 上杉音愛 (UESUGI Otoa) 土橋莉子 (TSUCHIHASHI Riko)

藤田彩乃 (FUJITA Ayano)

PART 1

(1) 1年生による発表①

(12:40～13:10) 30分間

* World Youth Meeting 2023 "What We Can Do for Children in Conflict?"

◎小川芳 (OGAWA Kaoru) 曲木一斗 (MAGARIKI Itto) 小野翔希 (ONO Toki)
土田佳蓮 (TSUCHIDA Karen) 中野美由起 (NAKANO Miyuki) 服部こはな (HATTORI Kohana)

* ASEP 2023 A "Equal Rights for Migrant Workers"

◎上田遼介 (UEDA Ryosuke) 宮下麗一斗 (MIYASHITA Raito) 山田知生 (YAMADA Towa)
木村優希 (KIMURA Yuki) 白崎愛理 (SHIRASAKI Airi) 日種莉子 (HIGUSA Riko)
山田空波 (YAMADA Soraha)

* ASEP 2022 B "No More Gap: Paving the Way for Gender Equality"

◎長谷部航 (HASEBE Kou) 上田茉依 (UEDA Mai) 高木愛可 (TAKAGI Aika)
田口愛光 (TAGUCHI Hina) 戸嶋紗栄 (TOJIMA Sae) 西葵衣 (NISHI Aoi)



(2) 2年生による発表①

(13:10~13:40) 35分間

Fukui Tour for Australians <Festivals / Events>

◎中野莉子 (NAKANO Riko) 荒川菜那 (ARAKAWA Nana) 街道彩羽 (KAIDO Iroha)
針谷柚夏 (HARIYA Yuzuka)

Fukui Tour for Australians <Crafts / Industries>

◎笹木杏紗 (SASAKI Azusa) 帰山心春 (KAERIYAMA Koharu)
末本さくら (SUEMOTO Sakura) 西村莉里花 (NISHIMURA Riria)

Fukui Tour for Australians <History>

◎井元紫乃 (IMOTO Shino) 赤井昊希 (AKAI Koki) 細川沙耶 (HOSOAWA Saya)
三和ひな佳 (MIWA Hinaka) 柳原由愛 (YANAGIHARA Yua)

Fukui Tour for Australians <Food>

◎鈴木小春 (SUZUKI Koharu) 島津花美 (SHIMAZU Ayami) 吉岡優月 (YOSHIOKA Yuzuki)

Fukui Tour for Australians <Geography / Nature>

◎鈴木菜七子 (SUSUKI Nanako) 上ヶ谷駿斗 (UEGATANI Shunto) 大塚空愛 (OTSUKA Kua)
清水凜 (SHIMIZU Rin) 高島愛華 (TAKASHIMA Aika)
山中梨瑚 (YAMANAKA Riko)



PART 2

(1) 1年生による発表②

(13:50~14:20) 30分間

The Power of Words : ~Build a Good Relationship with People Around You~

◎岡崎凌 (OKAZAKI Ryo) 内村早智菜 (UCHIMURA Sachina) 古保颯華 (KOBO Fuka)
塚本咲来 (TSUKAMOTO Sara) 紅谷萌果 (BENIYA Moeka)

Creating a Future of Respect

◎財部大地 (TAKARABE Daichi) 笥結衣 (KAKEHI Yui) 齋藤来未 (SAITO Kurumi)
辻涼花 (TSUJI Ryoka) 坊美菜海 (BOU Minami) 山口葉菜 (YAMAGUCHI Hana)

Healing People in Affected Areas

◎真杉一颯 (MASUGI Ibuki) 木寄笙子 (KIZAKI Shoko) 清水紅葉 (SHIMIZU Kureha)
田島璃音 (TAJIMA Rino) 坪田夕夢 (TSUBOTA Yuhi)
村上可純 (MURAKAMI Kasumi)

Introduction of Fukui

◎曲木一斗 (MAGARIKI Itto) 笥結衣 (KAKEHI Yui) 田口愛光 (TAGUCHI Hina)
坪田夕夢 (TSUBOTA Yuhi) 中野美由起 (NAKANO Miyuki)
服部こはな (HATTORI Kohana)

(2) 2年生による発表② (14:20~15:00) 40分間

< DEBATE > The Japanese government should legalize gestational surrogacy.

Academic Debate

Team A	◎五十子寧々 (IGAKKO Nene)	清水陽 (SHIMIZU Haruki)
	澤崎真紘 (SAWAZAKI Mahiro)	多田陽色 (TADA Hiiro)
	山田夏弥 (YAMADA Natsumi)	山本七海 (YAMAMOTO Nanami)
Team B	◎Rafael Rachelle (RAFAEL Rachelle)	岡本梨恋 (OKAMOTO Riko)
	笠原みゆる (KASAHARA Miyuru)	佐々木春華 (SASAKI Shunka)
	土田來楽 (TSUCHIDA Rara)	増永優志 (MASUNAGA Yasashi)
Parliamentary Debate	荒川菜那 (ARAKAWA Nana)	五十子寧々 (IGAKKO Nene)
	大塚空愛 (OTSUKA Kua)	



PART 3

(1) 福井県国際交流体験発表会 (15:15~15:20) 6分間

<最優秀賞>

"United States V.S. Japan High School" 2C 増永優志 (MASUNAGA Yasashi)

(2) スピーチコンテスト入賞者による発表 (15:20~15:35) 15分間

< 福井県高等学校英語弁論大会 第1部 優良賞 >

"Japanese Traditional Craft - Echizen Lacquerware" 2C 土田來楽 (TSUCHIDA Rara)

(3) 全商スピーチコンテスト県大会

<レシテーション部門 最優秀賞>

"Sadako Ogata" 3C 岡崎紫乃 (OKAZAKI Shino)

閉会式

Closing remarks from ALTs

■まとめ (成果と課題、今後の方向性)

(1) 成果

今年も国際経済科の1・2年生、3年生の有志が英語で1年間の取り組みの成果発表を行い、その学びを共有した。参加した生徒は、1年間に行ってきた活動やSDGsについてのプレゼンテーション、入賞したスピーチやディベートなどを披露し、日頃の学習成果をしっかりと伝えることができた。

また、先輩や後輩、クラスメイトの発表を相互に聞くことを通して、多くの学びを共有しながら次年度の方向性を確認する発表会となった。



異文化に触れ学ぶ機会の中で、自分と同じ環境で学ぶ高校生がどのような課題意識をもって取り組み、どのように歩んでいこうとしているのか、生徒たちは大きな関心を寄せてプレゼンテーションを聞き入っていた。

(2) 課題

今回は、国際経済科の生徒とその保護者を対象とした発表会としたこと、特に1年生、2年生ともに主体的、対話的、深い学びにつながるすばらしい実践であったが、もっと多くの人に広く発信すべきであった。今後は他学科にも連携対象を広げ、学校全体で国際交流を推進し、多文化共生の意識を高めていく必要がある。

また、オンラインでのライブ発信やオンデマンド配信なども可能な状況をつくりだし、中高連携や高大連携を意識して本校国際経済科の取り組みを発信し、理解していただく必要がある。

(3) 今後の方向性

次年度に向けて、今後さらに発表会の内容を充実させるだけでなく、他校の国際交流や国際探究に関するアンテナを高くし、生徒相互に高め合うような機会を設けて支援できるように努めたい。

様々な機会を捉えて、地域のグローバル化を担うリーダーとしての資質を育成し、特に新幹線開業にあわせ、誘客や地方創生を担うグローバル人材に必要な心と力を育成する実践モデルを構築していきたい。



5. 新聞を活用し多様な価値観に焦点をあてた提案授業

～福井県の観光客誘致戦略を考察する授業～

藤本 紗奈

■ はじめに

本校は7割の生徒が4年制大学に進学する。受験は学校推薦型選抜、総合型選抜（学校推薦不要で、試験では面接、小論文、プレゼンテーションなどを課す入試）が中心で、進学先の学部をみると、経済学部、教育学部、外国語学部などへの進学が多くなっている。生徒が経済学部や経営学部、商学部に総合型選抜を利用する際、多くの学校で社会学に関する小論文やレポートの提出が求められる。

現状のカリキュラムでは、小論文やレポートに必要な知識を学習する「公共」の授業は2年生で実施されるため、3年生の総合型選抜の時期には記憶が薄れ、再び一から公民科目の勉強を行う生徒が多く、小論指導を行う中で、現状が生徒の望む進路実現の足かせになっていると感じた。そこで2年生の「公共」の授業で、新聞の活用を通して、社会に関する知識理解の促進、根拠をもって物事を考える力の育成を図ることを目的に取り組みを行った。本実践は1月29日、2月14日に福井新聞の方と合同で行った授業実践を中心に取り上げた報告書である。

■ 取り組みの概要

(1) 目的 新聞を使った授業を通して、新聞を読むことは社会の全体像を理解することにつながることを理解させ、その情報や事実（根拠）に基づいて自分の考えを創造する資質能力を育成することを目指している

(2) 対象クラス 第一回 NIE 授業 2年生全クラス
第二回 NIE 授業 2年B組

(3) 実践記録

① 1月29日 第1回 NIE 授業 - 新聞から福井県の観光客誘致戦略を見通す授業

今回、「新幹線開業を前に福井県の観光客誘致戦略を新聞で見通す」をテーマに、社会の全体像を読み取る新聞活用法について福井新聞みんなの新聞推進室長菊野昭彦様に教えていただく。新聞の見出しを使った新しい新聞の読み方をしていく中で、「新聞を読んでみると、そういうことが分かるのだなあ」という生徒の実感的理解を目標としている。さらに、新聞記者としての視点から感想や意見と、根拠のある「論文」は違うことを伝え、両者の違いを理解させることを目標に授業を行った。

時間	生徒の活動	教師の活動
導入 13:10-13:15	福井の新幹線開業後の旅行者数は増加するか否かを考える。	感覚的に現時点でどう考えているかを考えさせる。
13:15-13:35	新聞記事を通して県の誘致戦略のストーリーを読み取っていく	一つのテーマを時系列で追って振り返ることで、そのテーマにまつわる事象を検証する（タテ読み）の方法で意見の観光にまつわる経営戦略を読み解かせる
13:35-13:40	説明をきいて感想文と意見文・論文の違いを知る	最初に考えた「この戦略がいい」という考えや意見は感想に近いが「記事を根拠にこうした戦略をとっている」と説明できると「論文」ができてくる旨を説明し理解させる
13:40-13:50 13:50-14:00	読みとった戦略がうまくいくかどうかグループで考える。 根拠となる記事を探す（時間が余れば発表） 感想を書く	グループでの話し合いが難しい場合は、記事の読み方などに方向を変える。 タブレットに入っている「ふくe刊」等を使い記事を探しやすくさせる。 ワークシートまとめる

このような流れで授業を進めた。その際生徒がプリント2に記述した内容は以下の通りである。

【生徒の記述 (Q2 福井県の観光誘致戦略を聞いてうまくいくか考えよう!)】

外国人は来るけど、国内人はあまりこない。若者は楽しめないから、遊園地、レジャーランドを増やす。福井の観光地は渋い。あまり映えない。公共交通機関の充実。福井を知ってもらう→宣伝→話題の継続性。恐竜ホテル、スイーツを永平寺に作る。星が見えるグランピングをつくる。SNS で呼びかけ。ターゲットを高齢者に絞る。はじめは人が大勢来そうだが、時間がたつにつれあまり来なくなると思う。新幹線開通したからといって恐竜博物館や永平寺にはいかない。場所ならでの体験を行う。ダイナソーパークを作る(テーマパークを作る)。自動運転がもう少し安全にできるようになったらもう少しうまくいく。お年寄り向けの施設があるといい。若者からの人気は出ない。高級ホテルだけでなく泊まりやすいホテルをつくる。免許なかったら観光しんどそう。永平寺ホテル精進料理出してほしい。歴史と関係あるイルミネーションをつくる。都会にはないものをつくる。街並みを恐竜一色にすべき。もっと手軽なお店。標識や言語を増やす。

生徒の記述を分析してみると、「話題性 長続き ならでは 自然 交通機関」のキーワードに分けられた。さらに生徒の新聞活用に関する感想が以下のとおりである。

- ・新聞はテレビのニュースと違って取っておくことができるので情報をついでも見返せる所がいいところだと思いました。
- ・新聞を読むだけでなく、そこから自分の考えを広げていくことが大切なんだと思った。普段情報を聞いてもそこで終わりだったけど、どうすればいいかなど考えて根拠を持って考えを持っているといいと感じた
- ・福井に何が足りないと尋ねられたときに、遊園地やイオンと答えたけど、東京の人がわざわざ福井に来ることはないと思えるのが大変だと思った。たくさん新聞を読んで情報を手に入れることが大事だとわかった。
- ・意見を固定させるのではなく、ほかの情報にも目を向け、多くの知識を得てから分析することが一つのことに集中しすぎる偏見や思いこみも防げると思いました。
- ・毎日新聞を読めば世の中のことがみえてきて理解が深まるのだと改めて思いました。自分はなかなか新聞を読む機会がないけれど、すこしずつでも新聞を読むくせをつけていくべきだなと思いました。

生徒が考える観光振興策(プリントのQ2)というのは、「自分だったらこんなのがあったら行きたい」という自分視点が多いあまり、イオンや遊園地を作りたいという声が多く上がった。しかし本当に他県の人を福井に求めているのかと考えたときにそうではなく、生徒は他者視点に立つことの必要性に迫られると感じた。

観光のターゲット層を絞ることで、自分は何を考えなければならないのか、何を調べなくてはならないのかなど見えてくることもたくさんあるのではと思い、2月のNIEでは、そのターゲット層に注目して福井の観光戦略について検討することを計画した。

単にターゲット層を絞り観光戦略を考えるといても、福井県の方針を抑えないことには机上の空論となりかねない。そこで福井県はいったいどの層をターゲットにしているのかについて、菊野様に改めて福井の観光戦略を説明いただき、自分はどの層をターゲットにするのか、ファミリー層にするのか、富裕層にするのかについて考えさせていきたい。



② 2月14日 第2回NIE授業 - ターゲット層を決め、事実を基に観光戦略を考える授業

前回、「新幹線開業を前に福井県の観光客誘致戦略を新聞でから見通す」をテーマに、社会の全体像を読み取る新聞活用法について福井新聞みんなの新聞推進室長菊野昭彦様に教えていただいた。

生徒の感想を読んでいくと、福井の観光にはもう一度行きたいという魅力がないという現在の観光戦略に持続可能性が必要であるという観光の課題に気付いている生徒が多かった。しかし一方で福井に足りないものとは考えるとイオンやテーマパークといった声が多く、他者の立場に立って物事を考えるという力が不足していることに気付いた。

そこで今回は、ターゲットを定め、徹底的に他者視点に立って物事を考えることを通して福井の観光戦略について再び検討していく。

今回の授業では、「①他者視点に立って物事を考えることできる、②根拠（事実）に基づいて自分の考えを膨らませることできる」を目標とした。

時間	生徒の活動	教師の活動
導入	前回クラスで考えたことを分析し、今後の見通しを理解する	テキストマイニングで、前回生徒が考えた内容を分析し、視覚的に今後見通しを持たせる。
展開①	福井県の観光の方針や、国の観光背策を聞いて、「富裕層」が観光戦略としてあることを理解する	新聞記事を使い福井県・国の戦略を理解させる。説明は菊野様に行っていただく
展開②	観光戦略のターゲットを一つ決め、新聞記事から現在どのような取り組みが行われているか調べる	ふくe刊を使用し、現在福井でどんな取り組みが行われているか理解させる。検索ワードを工夫する必要があるため、Googleでの検索も可能とする。学習はジグソー法を活用し進める。
展開③	グループで女性層、ファミリー層、高齢者グループ、外国人から割り当てられたものを調べる	
まとめ	調べて分かったことからターゲットに対する観光戦略の課題を見つけ解決策を考える	時間があれば行う 観光庁やJTBの旅行年報2023の資料を活用しながら提案内容を考える。
	それぞれ調べた内容を違ったグループの人に発表しききあう	視点を変えることで、観光戦略の方針が大きく異なることを理解させ、他者視点に立って物事を考えることの重要性に気付かせる



時間がなく、本時では展開②、早いグループで展開③まで行い、展開②③と感想を書かせた。生徒の記述は以下の通りである。

【生徒の反応】

【女性層】	【ファミリー層】
<p>提案例) 食事つきグランピング 季節によって食事を変え、リピーターを増やす ・福井には食や自然など推せるポイントがたくさんあるが、それを生かしたスポットが少ないと感じた。 ・<u>マーケットセグメント表をみて、実際に福井の数値を全国的に見ると、宿泊日数も少ないし、ショッピングも著しく低かった。福井は交通網が不便だから車がないと行けないという欠点もあるが、車を使ってドライブもできるのではないかと思った。キャンプやBBQは女性だけでは厳しいが、グランピングは用意してくれるからそれを生かすべき</u></p>	<p>例) <u>自家用車で来る人がほとんど</u> →子どもが飽きてしまう→<u>新幹線・電車のファミリー割、ふくいクーポン、特典つけるなど</u></p> <p>・<u>福井の子ども向けの企画は恐竜や鉄道など男の子向けの企画が多いと感じました。女の子でも楽しめるような企画を考えていきたい</u>と思いました。子どもだけでなく親も楽しめる企画を。</p>
【高齢者】	【外国人】
<p>例) 旅館の料理で福井の海鮮をたくさん提供する ・旅館で福井の海産物を食べられたら、福井の良さを知れるし、移動が大変な高齢者でも楽しめるプランだと思う。高齢者向けなのでシンプルな味付けがいいと思う。 ・高齢者向けのものはたくさんあるのに、他県の人に知られていないのが現状。もっと福井の情報を発信していくことが大事だと思った。</p>	<p>・<u>外国人の次回したいと思うことのほとんどが福井で体験できることだったので、外国人をターゲットにすると観光客が増えていく</u>と思いました。 ・福井には外国人が楽しめるような観光地域や体験プランはあるから知名度を上げることが一番大事だと思いました。交通手段が少ないのが問題なので、インフラについても解決できたらと思いました。 ・<u>日本のおもてなしの心も外国人には嫌がられてしまうことがあるとわかり、相手が何をしてほしいと感じているのかを聞いてから動くことの大切さを知った。</u></p>

などの感想が見られた。またターゲットを絞り、その戦略を考えるという活動自体に対しては以下のような感想が見られた。

- ・ターゲット層絞ることで、観光への取り組み方も変化するのが面白かった。
- ・福井についての様々な資料を見て、分析して観光戦略を考えるのが難しいと感じた。

■まとめ

(1) 成果

今回は「①他者視点に立って物事を考えることできる、②根拠(事実)に基づいて自分の考えを膨らませることできる」という目標を設定したが、生徒の反応や記述を読むと十分に達成できているのではないかと考える。

①他者視点に立って物事を考えることができる

生徒の提案内容の中で特に特徴的なものを下線部で示した。例えばファミリー層であれば、前回は「ダイナソーパークを作る」という抽象的な提案しかなかったが、今回は子どもが長時間車に乗ることの難しさ、高い新幹線代を払うことの難しさなど家庭での問題を具体的に考えたために、ファミリー割やクーポンの提案などより現実的かつ県外の家族旅行者に寄り添った提案となっているのは明白である。

②根拠(事実)に基づいて自分の考えを膨らませることできる

生徒の反応の表の中の二重下線部は調べて分かったこと(事実)を示しているが、前回の記述には事実は少なく、

自分の頭で考えた予測に対しての提案が多かった。しかし今回は事実に基づいて提案するということを徹底的に行ったおかげで、事実について触れる記述が増えた。例えば、女性層にターゲットを当てたグループでは、「宿泊日数も少ないし、ショッピングも著しく低かった。福井は交通網が不便だから車がないと行けないという欠点」ということを JTB の旅行年報 2023 から読み取り、車を使ってドライブの提案を行っている。このように事実に基づいた提案というのがどのグループでも見られるようになった。

(2) 課題

今回の課題としては、読む資料が多く提案につなげられないという点である。菊野様に持参いただいた、観光庁の「訪日外国人の消費動向」の資料や、JTB 旅行年報 2023 の資料だけでなく、ふく e 刊の資料もあったため、事実の読み解く、資料の読解に苦勞する生徒が多かった。また資料同士の情報をつなげられず、読んで終わり、次どうしていいかわからないという様子も見受けられた。

(3) 今後の方向性

今後は一つの資料を掘り下げて丁寧に資料を読解する取り組みや、資料同士の情報をつなげる訓練を、授業の中やふく e 刊を活用していく中で実践していきたい。

令和5年度福井商業高校 学校経営について

1. 本校の魅力化に向けた取り組みについて

《取り組み》「社会に参画できる心と力の育成」

- ・ソーシャルデザインプロジェクト 地域社会の魅力と在り方について
2年生課題研究「UターンJターン推進案」「福井の魅力創造プロジェクト」
- ・多文化共生プロジェクト 国際交流と異文化理解について
オーストラリア、台湾、韓国、スロベニアとの国際交流
- ・起業家育成プロジェクト 地元起業家による新たな事業や取組の提案
- ・スマイル探求プロジェクト 福井から世界の誰かを笑顔にする取組について など

2. 魅力や価値を創造し発信するプロジェクトについて

プロジェクト総括	教 頭	田嶋 基史
魅力や価値を創造し発信するプロジェクト	授業名人	英語科 野村 希美子 教務主任 商業科 三田村 典幸
福井商業探究推進プロジェクトチーム	商業科主任	商業科 辻 博文 ピークワーク代 表 千葉 亮子
	1年 主任	英語科 石田 洋志 リーダー 商業科 河原 辰徳
		体育科 山本 逸平 国語科 黒田 真知子
		英語科 竹内 康敏 体育科 糸 尚代
		理 科 盛高 佑貴 商業科 竹内 誠
		体育科 川村 忠義
	2年 主任	芸術科 織田 祐宏 リーダー 商業科 高木 謙治
		商業科 野瀬 司 英語科 伊藤 琴絵
		商業科 牧田 翔平 家庭科 小林 知秋
		商業科 横山 加名 体育科 山田 真輝
新聞活用推進プロジェクトチーム	福井大学教育学部 教 授	橋本 康弘
	福井新聞社	みんなの新聞推進室長 菊野 昭彦
	福井商業高校	公民科 澤田 聡恵 国語科 黒田 真知子
国際交流推進プロジェクトチーム	福井商業高校	公民科 山本 泰平 公民科 藤本 紗奈
	福井大学国際地域学部 教 授	小幡 浩司
	福井商業高校	英語科 野村 希美子 英語科 石田 洋志
教科横断型授業推進プロジェクトチーム	福井商業高校	英語科 伊藤 琴絵 英語科 竹内 康敏
		英語科 堂埜 真希 英語科 山口 貴美
		英語科 浅水 直子 英語科 上田 沙織
		英語科 ジェイク・ヒューストン 英語科 エリザベス・ボットウキン
	福井商業高校	英語科 石田 洋志 家庭科 小林 知秋
ボランティア推進プロジェクトチーム	福井商業高校	家庭科 梶田 実紀 家庭科 吉原 由紀子
	福井商業高校 福井市内公民館	国語科 増田 典子 山内 裕美 福井県視覚障がい者センター

3. 学級編成について

学科	1年						2年						3年					
	組	男	女	合計	担 任	副担任	組	男	女	合計	担 任	副担任	組	男	女	合計	担 任	副担任
商業	A	15	24	39	山本逸	中田	A	12	27	39	高木	西	A	15	24	39	梶田	藤田
	B	14	26	40	黒田	石田	B	10	28	38	野瀬	山口	B	18	21	39	渡辺	五十嵐
国経	C	9	27	36	竹内康	板谷	C	4	34	38	伊藤	田村	C	6	32	38	堂埜	小島
会計	D	3	36	39	糸	辻	D	11	28	39	牧田	藤本	D	7	20	27	小林幸	平本
情処	E	19	20	39	盛高	坪田	E	18	21	39	小林知	水口	E	17	22	39	吉崎	瓜生
	F	19	19	38	竹内誠	若山	F	18	21	39	横山	増田	F	17	22	39	小形	斎藤稜
流経	G	13	26	39	川村	斎藤	G	17	22	39	山田	浅水	G	15	24	39	竹内祐	伊部
	H	13	26	39	河原	小林範	H	17	22	39	服部	織田	H	15	21	36	加藤	宮西
計		105	204	309		福岡		107	203	310		岡本		110	186	296		松田
						岡田						三田村						野村
						(竹内浩)						澤田						
男子合計					322		女子合計				593		総合計				915	

令和5年度
魅力や価値を創造し発信する取り組み
引き出す教育、楽しむ教育実践事業報告書

発行 福井県立福井商業高等学校

発行日 令和6年2月

〒910-0021 福井県福井市乾徳4丁目8番-19号

TEL : 0776-24-5180

FAX : 0776-24-5181

URL : <https://www.fukusho-ch.ed.jp>

印刷 創文堂印刷株式会社

〒918-8231 福井県福井市問屋町1丁目7

TEL : 0776-22-1313

FAX : 0776-25-1030

URL : <https://www.soubundo.jp>